

**(2) 岐阜大学教育学部における  
10年経験者研修（大学研修）の構想と展開**  
－教師の生涯発達と共に歩む教育学部へ－

岐阜大学教育学部研修計画委員会 石川英志

① 10年経験者研修に対する教育学部としての基本的なスタンス

法定研修としての10年経験者研修は、教員免許更新制導入の可能性の検討のなかで生まれたという政策的事情、多忙な教員の一層の負担増への懸念等を伴って登場したものの、次の二つの可能性を拓く契機として、大学（教育学部）の置かれた状況のなかに位置づけたい。

i 教員研修の再構築の契機として、10年経験者研修を位置づける

これまでの経年研修における、教職経験年数に応じて標準的に想定された力量や役割に対応した研修内容では、個々の教師の個性（問題意識や課題や関心等）はさほど考慮されていない。しかし10年経験者研修では、教師の自己評価ならびに校長による評価にもとづいて、教師が研修計画をみずから設定したり、さまざまな場に研修機会を求めるなど、個々の教師が自立的な研修を展開するための対応や枠組みの設定が法的に求められ（教育公務員特例法第20条の3第1項、第2項）、教育委員会としても早急に整備しなければならない状況に置かれた。こうした状況のなかで、人的物的な環境に恵まれた大学（教育学部）がいかに連携するかということが大きな鍵になってくる。しかも、長期休業期間中の研修として、大学や大学院等での授業参加を位置づけることが想定されており（平成14・8・8文科初第575号事務次官通知）、そこに大学（教育学部）としての関わりの可能性を拓くことができると考えられるのである。

ii 教育学部としてのアイデンティティの模索と構築の契機として、10年経験者研修を位置づける

これからの教育学部にとって、教員養成を担うことと並行して、地域の現職教員の professional development への関わりを教育機能の中軸に位置づけることが重要である。現在は、教員養成のステージだけでなく、教師の生涯発達のプロセスにわたって、教師とともに歩んでいく教育学部としてのアイデンティティをいかに形成するかということを模索すべき局面にあるというべきであり、10年経験者研修の登場はまさしくその契機として位置づけられる必要がある。

むろんこれまでも、現職教員の大学院への受け入れや、個々の学校の校内研修への個々の大学教員の協力などはどの大学（教育学部）でも行われてきたが、一部の現職教員や大学教員に限られたものであった。また、免許状取得のための認定講習や公開講座等も、多くの場合、匿名多数の教員を対象とする一方向的なレクチャーを軸に進められてきた。それだけに、個々の教師への対応を軸とする10年経験者研修は、その研修枠組みの設定次第では、大学教員が個々の現場教師と face-to-face で向き合い、一方向的なレクチャーから双方向的な談話への変換の重要性を意識し、研修終了後にも継続発展していくネットワークを形作り、大学教員の現場への意識やイメー

ジを具体化する契機となると捉えられる。その場合、重要なことは、教育学、心理学、教科教育学、特別支援教育等を専門とする人々だけでなく、いわゆる教科の背後にある親学問を専門とする人々が現場教師との個別的相互的な交わりのもつことである。言い換えれば、教育学部教員のだれもが現場教師と相互的な対話や談話をもつ場として、10年経験者研修を位置づけることである。現場教師のニーズや問題意識においても、これまでの自らの実践に対するリフレクション（実践の問い直し捉え直し学び直し）に求める方向や、若手教師から中堅教師への位置づけの変化に伴う学校内外の人と人の協働や連携をめぐる組織改革への問題意識、実践の基盤となる専門的知識の修得やそれらへの問題意識の蘇生に関するものなど実に幅広く、それらに個々に対応するには、さまざまな専攻分野に配置された教育学部教員の参画や相互連携が大きな鍵となってくるのである。

以上、10年経験者研修の登場を教育学部としてどう受けとめたらよいか、その基本的スタンスを述べてみた。

次に、10年経験者研修（なお、岐阜県では従来から行われてきた「12年目研修」を再編成して、10年経験者研修をその一環に位置づけたので、「12年目研修」と呼称される）をめぐる岐阜大学教育学部の取り組みに論点を移したい。いうまでもなく、岐阜大学教育学部は上に述べてきたようなスタンスをはじめからもっていたわけではない。岐阜県総合教育センター（岐阜県教育委員会研修管理課）との間で、大学における教員研修（大学研修）の構想、その具体的な実施手順等めぐる幾度も協議するなかで、10年経験者研修への参画を支える基本的スタンスをしだいに形作り、そのもとに平成15年度、続いて平成16年度と教員研修を実際実施してきたのである。

ここに報告し考察するのは、10年経験者研修をめぐる岐阜大学教育学部と岐阜県総合教育センターの連携の経過、同研修における大学研修の構想と展開、教員研修に大学教員が取り組むことの意味等に関するものである。

## ② 教員研修をめぐる大学と教育委員会の連携の前史

### －10年経験者研修の連携の基盤－

岐阜県では、平成15年度からの10年経験者研修の実施と同時に、同研修における岐阜大学研修も実施されることになったのだが、その前史ともいべきものがある。

10年経験者研修をめぐる大学と教育委員会の連携は、直接的には、平成13年2月に岐阜大学教育学部と岐阜県総合教育センターとの間で取り交わされた「連携協力に関する覚書」にもとづく。この覚書にもとづいて連携を具体的に推進する組織として「連携協力協議会」が設置された。大学においても、教員研修を中心に担当する「研修計画委員会」が設置されることになった。

そして平成13年度より、センターがこれまで実施してきたいわゆる6年目教員研修の一部を大学で連携研修講座として実施することになった。平成15年度には、計32の講座が開設されるに至っている。講座企画にあたっては、同センターの講座担当主事が大学教員に研修講座の内容をいわば丸投げ式に委託してしまうのではなく、まず希望するテーマ、希望する大学教員、研修方法等を取りまとめて、大学の研修計画委員会に通知し、同委員会での検討を介して各教員に伝える。そこから、主事と大学教員が連携研修講座ごとに個別に協議を始め、具体的なプランニングを共同で行い、実施に臨む。研修終了後、大学とセンターが、それぞれに担当した大学教員と研修教

員に対する調査を実施し、結果を照合して、今後の研修内容や研修方法等に関する課題や展望を共同で考察する。

このような研修の構想と実施をめぐる連携の経験のなかで、次の段階の10年経験者研修をめぐる連携が準備されてきたといえるのである。

### ③ 10年経験者研修をめぐる大学と教育委員会の連携

平成14年9月に開催された岐阜大学教育学部と岐阜県総合教育センターの連携協力協議会において、センターから、10年経験者研修の長期休業期間研修の一部を岐阜大学で実施する可能性に関する提案がなされた。これを受けて、大学とセンターの10年経験者研修合同ワーキンググループ（合同WG）をつくり、研修構想を策定することになった。これに対応して、大学でも、研修計画委員会をもとに、10年経験者研修学内ワーキンググループ（学内WG）をつくることとなった。

以後の10年経験者研修構想をめぐる協議の経緯をみてみたい。連携協力協議会および合同WG協議は、平成14年度において5回開催され、研修の基本的な構想をめぐる議論や、それを具体化する方法等に関する協議を展開してきた。その間、学内WGの議論も随時頻繁に行われた。

研修の基本的な構想をめぐる展開された議論とそこでおおよそ合意されたことは、おおよそ次の四つに整理できるであろう。

一つめは、10年経験者研修に対する大学の連携協力の必要性に関するものである。これについては、「個々の能力、適性等に応じて、教諭等としての資質の向上を図るために必要な事項に関する研修を実施しなければならない」（教育公務員特例法第20条の3第1項）と規定されているように、対象教員一人ひとりの課題や問題意識等にもとづく研修計画にできるだけ対応しうる研修メニューが求められる。そうした個々の教員の可能性と課題に対応しうる研修を具体化し、充実したものとするために、スタッフや施設等の環境に恵まれた大学がいかなる役割をどの程度担えるかということがきわめて重要なポイントとなる。

二つめは、評価に関するものである。10年経験者研修では評価の在り方が一つの大きな焦点になっているが、大学とセンターの合同WGにおいても、評価への大学の関与が議論の一つの焦点となった。結果として、大学側では一人ひとりの教員を対象に担当教員が研修評価を三つの項目（問題意識・研究方法・研修成果と今後の展望 資料9）にわたって記すことになったが、この評価を10年経験者研修の評価システム（在勤校の校長による評価案および研修計画書案作成→教育委員会による決定→大学研修を含めた種々の研修の実施→研修成果の評価）のなかに直接明示的に組み入れることはしなかった。大学研修はあくまでも現職教員の professional development を目的とするものとして位置づけ、研修成果の評価のための手がかりとするにとどめた。

三つめは、10年経験者研修の一部を担うことが大学教員にもたらす意味に関するものである。匿名の多人数を相手とするレクチャーではなく、10年にわたる多様な教職経験を背景にもつ現場教員一人ひとりとの具体的な対話や談話を行って、かれらの問題意識やニーズに耳を傾ける経験は、大学教員に大きな意味をもたらすであろう。したがって、大学教員一人あたりの担当する研修教員を少人数（基本的に15年度上限9名）に限定し、かれらの具体的な問題意識や課題を介して、具体的な対話や懇談の経験を積むことは、教育現場へのイメージ形成につながるものと期待される。そうした経験の蓄積は、教員養成とともに、現職教員の教師教育を積極的に担う教育学

部への発展のための基盤形成となりうるであろう。

四つめは、キャリアステージ10年に位置する教員の課題や問題意識やニーズと、それに対応する研修内容・方法に関するものである。センターから当初提示された大学研修構想の第一次案(平成14年9月時点 資料2)によれば、その目的は「教科研修の一環として教科の専門性を高める」こと、すなわち教科の背後にある学問的専門的な知識や技術の習得や理解に限定されていた。むしろ、大学が現場教員の成長に貢献しうるその中核たるものの一つとして、教科の背後にある専門的な知識や最新の学問的動向に関する情報の提供、学問への姿勢を蘇生する知的な刺激の提示等が挙げられるだろう。

しかし、教職経験10年のキャリアステージにある教員は、若手から中堅に移行する重要な局面にさしかかり、自分の教科や学級の子どもとともに、学年や学校の実践研究の推進や若手教員への支援等に視野を広げることが必要である。また、これまで形成し、しだいに安定してきた教育観や子ども観、実践手法等について問い直しや学び直しが必要であると自己の内側から迫られている人が少なくないのではないか。そうしたものが、かれらの根底に問題意識あるいはニーズとして存在するととらえることが大切であり、これに対応した研修機能を、10年経験者研修に位置づけることが求められているのではないか。

このような認識が大学とセンターの協議のなかでしだいに広がり、結果として「教科教育」とともに、六つの分野、すなわち「特殊教育」「教育相談」「総合的学習」「児童生徒の発達理解」「学校改善」「学級経営・実践研究法」の分野(「キャリアアップ・フィールド」)が設定されることになったのである。

こうした幅広い諸分野の設定は、教育現場の問題意識やニーズに対応するものであることが、その後明らかにされた。大学研修の始まる前の平成15年6～7月に、岐阜県内の公立の小・中・高等学校の校長・教務主任・研究主任・一般教員、全市町村の教育長を対象とする教育学部の地域貢献に関するニーズ調査を行った。その概要は、前述の「3. 教員研修に対する大学の役割に関する事前調査とその分析ー現場は大学に何を期待しているかー」に記載したが、10年経験者研修の一環として予定されている岐阜大学研修の上記七つの分野のうちどれを学びたいか、あるいは学ばせたいかを選択してもらった。全体としてみると、学級経営・実践研究法(31.8)がもっとも高く、教科教育(25.3)、教育相談(14.6)、学校改善(14.6)と続く。校長～一般教員の各層別にみると、校長では、学級経営・実践研究法(44.1)の占める割合が突出して大きく、次に多い教科教育(22.8)と合わせて、3分の2を越える。教務主任では、学校改善(29.7)と学級経営・実践研究法(25.8)とで、50パーセントを越える。研究主任と一般教員では、学級経営・実践研究法と教科教育へのニーズが高い。一般教員では教育相談へのニーズ(19.6)が他の層に比べて高くなっている。このようにみえてくると、七つの分野にわたる設定は、教育現場のニーズや問題意識に対応するように配慮したものとなったのではと考えられる。教科教育に限定されたならば、それ以外の諸分野へのニーズは顕在化しえず、大学研修への期待は高いものとならなかったと推測される。

#### ④ 大学研修の基本構想

それでは、教員の professional development に関わる岐阜大学研修の基本構想について述べて

みたい。その基本的な方向をおよそ次の三つとした。

一つには、教員自身の授業実践そのものを考察対象として取り上げ、自分のなかで蓄積してきた授業観や教科観や子ども観を省察し、今後の実践に対するスタンスの再構築を支援しようとするものである。これまで10年間にわたって実践を積み重ねてきたなかで、授業のスタイル、子どもへの働きかけ方、教材づくりなどをめぐる自分のスタイルを形づくり、それを何らかの実践記録や実践論文に表してきたはずである。それらを省察の対象とする。

二つには、先の展望や解決の方向をつかめず、なんとかしなければという意識が空転し、行き詰まりを感じたり自信を喪失している教師としての生き方にかかわる問題をめぐって共同的に談話するというものである。大学の役割は、解決の手がかりや糸口を提示するよりも、共同的なコミュニケーションの組織にあり、新たな視点の提供等を行う。

三つには、実践の基盤となる専門的知識の修得や、学問への関心や問題意識の蘇生に関するものである。魅力や必要を感じつつも踏み切れずにきたことにこの機会に取り組みたいという意欲やニーズに対応した情報提供やアドバイスをを行う。この三つめの方向において研修を展開する大学教員の比率が高い。

こうした方向を踏まえて作成された大学研修の基本構想は、資料3「岐阜大学研修の基本構想とメニューの特徴」に示すとおりである。

#### ⑤ 大学研修の実施過程（平成15年度）

平成15年度10年経験者研修(大学研修)の準備および実施のスケジュールについては、資料4「大学研修の準備と実施のスケジュール」のとおりである。

研修内容については、上記の基本構想のもとに、七つの分野にわたって、単独あるいは共同運営による研修コースが平成15年度では大学院教育学研究科の全教員（大学院レベルの研究的研修として大学研修を位置づけたことにもとづく）から総計120提出された。岐阜県内の研修教員(小・中・高・特の校種総計390名)は、研修計画書との対応において、希望コース（第一・第二希望）を岐阜県総合教育センターに提出した。センターはその振り分け調整を行い、それを受けて、大学側で所属コースを決定した。希望者のないコースがあったため、実施されることになったコースは、資料7のように、教科教育58、特殊教育7、教育相談5、総合的学習12、児童生徒の発達理解4、学校改善6、学級経営・実践研究法6、総計98コースとなった。

研修の日程は、次のようである(資料8参照 平成16年度岐阜大学ホームページに記載された研修教員向けの手引き「岐阜大学研修(12年日研修)について一趣旨・日程等について」)。

大学における研修教員の位置づけを現職教育内地留学生として、その期間を7月～12月の6ヵ月とした。したがって、研修教員は10年経験者研修の一環としての大学研修に参加する日程以外でも、その6ヵ月間にわたって、希望コース担当の大学教員に相談したり、大学のe-Learningシステムや附属図書館等の諸施設・設備の利用を保障されることになる。

コース受講としての大学研修は、7月下旬から9月下旬にかけて、5日間実施される。5日間というのは、連続5日間に限定されたものではなく、計5日間を意味する。

(第1日目) 同じコースに所属するメンバーの自己紹介、大学教員からのアドバイスや資料提供、討論(研修教員は研修計画書に記述した大学研修課題について、コース担当の大学教員と対話や

懇談を行う。自分の問題意識や関心をより明確に表した課題を設定したり、その追究方法を考える)

また、この日に、大学のコース担当教員と研修教員との間で、全員出席可能な最終日第5日目の日程を協議して、決めておく。

(第2～4日目) 第1日目の協議にもとづく自主研修(大学施設の利用による実験や調査活動、e-Campus システム〈Blackboard Learning System〉を利用した連絡のやり取り、大学教員との個別相談、勤務校での実践資料の作成とその考察等)

(第5日目) 各コース内での発表と討論(研修を通して学び得たことや今後の実践への取り組みの展望を中心に)

なお、実技や具体的な実践にかかわる研修内容を予定するコースのなかには、附属学校教員によるアシストを依頼したいというものもあったので、研修計画委員会として大学教員の希望を取りまとめて、附属小・中学校に依頼し、数名の附属教員の協力が得られた(平成16年度も同様に、協力が得られた)。

## ⑥ 平成15年度大学研修の課題をめぐる協議と次年度に向けての改善方向や展望

平成15年度大学研修の全日程終了後の平成16年2月に、研修の具体的な実施過程を振り返り、その意味を確認したり、その過程で生じた諸課題を検討し、それらにもとづいて平成16年度の基本的方向や実施方法を協議するワーキングと懇談の場を、岐阜県総合教育センターと岐阜大学教育学部の間で設けた。協議の場では平成15年度大学研修の基本的な考え方やシステムを受け継ぐ形で次年度に行うことになったが、コンセプトのレベルと実務的なレベルでの、研修教員および大学教員の双方からみた課題としておおよそ下記の諸点を確認した。そこには、次年度に改善できるものと今後改善の方向を引き続き模索すべきものがあると考えられるが、太字の矢印の右に記述したものは、その課題に対応して、平成16年度に変更ないしは実施する事項、あるいは今後の展望である。

- ・ 大学研修の背景にある、教師の職能発達に関わろうとする大学側の趣旨や、一人ひとりの関心や問題意識に対応するための実施方法等について、岐阜県総合教育センターのホームページにあらかじめ載せ、研修前に見ておくように通知したが、それだけでは不十分である。やはり大学研修の始まる前に、研修教員がよく理解し納得できるオリエンテーションの場を設定したい。➡平成16年5月に岐阜県総合教育センターで校種別に10年経験者研修の全体的なオリエンテーションが行われるときに、大学研修のオリエンテーションも日程に組み入れて、大学側の説明を行うとともに、さまざまな質問に対応できるようにする。
- ・ 研修教員は希望するコースを第一および第二希望まで記し、第一希望のコースが定員上限を超え、第二希望のコースにまだ余裕がある場合、第二希望への変更の通知がなされる。これに対して、できるだけ第一希望のコースに入れるようにしてほしいという要望が研修教員から出されている。➡研修教員の希望は、一方で第一希望を優先してほしいというものであるが、もう一方では、少人数規模を維持してほしいというものである。大学側としても、できるだけ少人数で行いたい。また今後、研修教員数が減っていく状況にある。したがって、当初のコース定員数のもとに少人数ゼミで行うことを基本としつつ、第一希望に対応できるように、ある程度の定員超過が可能かどうかを、教育委員会研修管理課と研修計画委員会との間で調整しながら

ら、該当するコース担当の大学教員に打診する。

- ・今年度、大学側で作成し、岐阜県総合教育センターのホームページに掲載した大学研修の各コースはテーマの掲示にとどまっていた、研修教員にとって研修内容の説明が不十分である。  
➡岐阜大学ホームページに各研修コースごとに具体的な内容とその目的、事前に準備しておくこと、研修形態等を掲載する。
- ・第1日目に出席した段階で、コース内の研修教員が全員出席可能な最終日の第5日目を決めるというのは、なかなか困難である。その時点ではすでに別の予定が入ってきている。➡最初から第1日目と第5日目を大学の担当教員の側で設定して、ホームページに掲載する。ただ、研修内容よりも日程が優先されてコースの希望が出される可能性が大きくなるので、個別的な対応であるが、コース担当教員によって、第1日目に出席者のなかで第5日目を決めるという進め方もあってよい。
- ・研修教員からの指摘として、コースによって進め方に大きな違いが見られる。研修用資料を全部大学側で用意して、大学教員から研修教員へのアカデミックな研究内容の伝達を軸とするレクチャーとして展開するコースが一方にあれば、教員自身の実践をもとに、そのリフレクション（省察）に重点を置き、大学担当教員も参加して研修教員相互で共同的に談話を展開するコースもある。➡その違いの背後には、教科の背後にある学問的専門的知識（学術研究の成果）の下降的な伝達・応用の重視と、自己の実践経験の共同的な省察とそれにもとづく実践的見識の形成、という教師教育を従来構成してきた学術研究と教職専門性開発教育の二つの軸をめぐる根底的な違いがあると考えられる。小学校～高校までの校種とも関連するが、それぞれに研修教員側からのニーズがあると考えられ、現時点ではそうした違いがあることを明確に通知することが必要である。
- ・大学教員にとって、研修第1日目が研修教員との初対面であり、そこで具体的な問題意識や関心を出してもらい、それへの対応を迫られたという展開となった。事前に情報として可能であれば、研修教員の問題意識を入手したい。➡なかなか困難な課題であるが、今後のシステム上の対応として、事前に、個々の研修教員→岐阜県総合教育センター→岐阜大学教育学部研修計画委員会→コース担当の大学教員というルートで、研修教員の問題意識や研修テーマに関する情報が伝えられるシステムを設定する必要がある。また、コースに参加する研修教員が確定した段階で、大学教員から研修教員の勤務校にアクセスして個人的に談話することが大切である。大学教員にとって今回のかたちで教員研修に取り組んだことの意味、今後検討すべき課題等については後述することにして、以上のような課題とその改善の方向や展望を確認して、平成16年度大学研修の準備に入った。

## ⑦ 平成16年度大学研修の構想と実施

平成16年度も、七つの分野にわたって、単独あるいは共同運営による研修コースが、長期出張予定の教員を除く大学院教育学研究科のほぼ全教員から提出された。その内訳は、資料10にみるように、教科教育79、特殊教育6、教育相談5、総合的学習15、児童生徒の発達理解4、学校改善6、学級経営・実践研究法6、総計121コースとなった。対象となる研修教員は小・中・高・特の校種総計346名である。前年度より教員数が減ったこと、大学教員と研修教員の双方から少人数を

望む声が多いことに対応して、大学教員一人あたりの定員上限を9名から7名に下げた。

5月に岐阜県総合教育センターで校種別に10年経験者研修の全体的なオリエンテーションが行われ、そのときに大学研修のオリエンテーションも組み入れて、研修計画委員会として説明を行い、質問に対応した。またe-Learningの活用方法について、岐阜大学総合情報メディアセンター所属の教員（岐阜大学大学院教育学研究科の構成メンバーである）が説明した。岐阜大学ホームページには、担当する大学教員に各研修コースの日程（第1日目・第5日目）、予定している研修内容とその目的、授業案や1学期の授業実践の録画記録・児童生徒のケースレポート等事前に準備しておいてほしいこと、研修形態等を記述してもらい、掲載した（資料10）。なかには、研修後の2学期に研修教員の授業参観を予定していること、大学研修のなかの自主研修に第2～4日目に行う実習イベントへの参加を通知しているコースもある。研修後の大学教員と研修教員のネットワーク形成の基盤となるものと期される。

こうした事前準備のもとに、7月下旬から9月下旬に至るまで、個々のコースごとに大学研修を実施した。

研修コースの具体的な実施状況は、後述の「5.平成16年度大学研修コースの具体的な展開－実施状況・課題・展望－」に詳しく記述されている。また、実施後に行われた研修教員向けおよび大学教員向けのアンケート結果とその考察は「6.平成16年度10年経験者研修に関するアンケート調査分析」にあるとおりである。

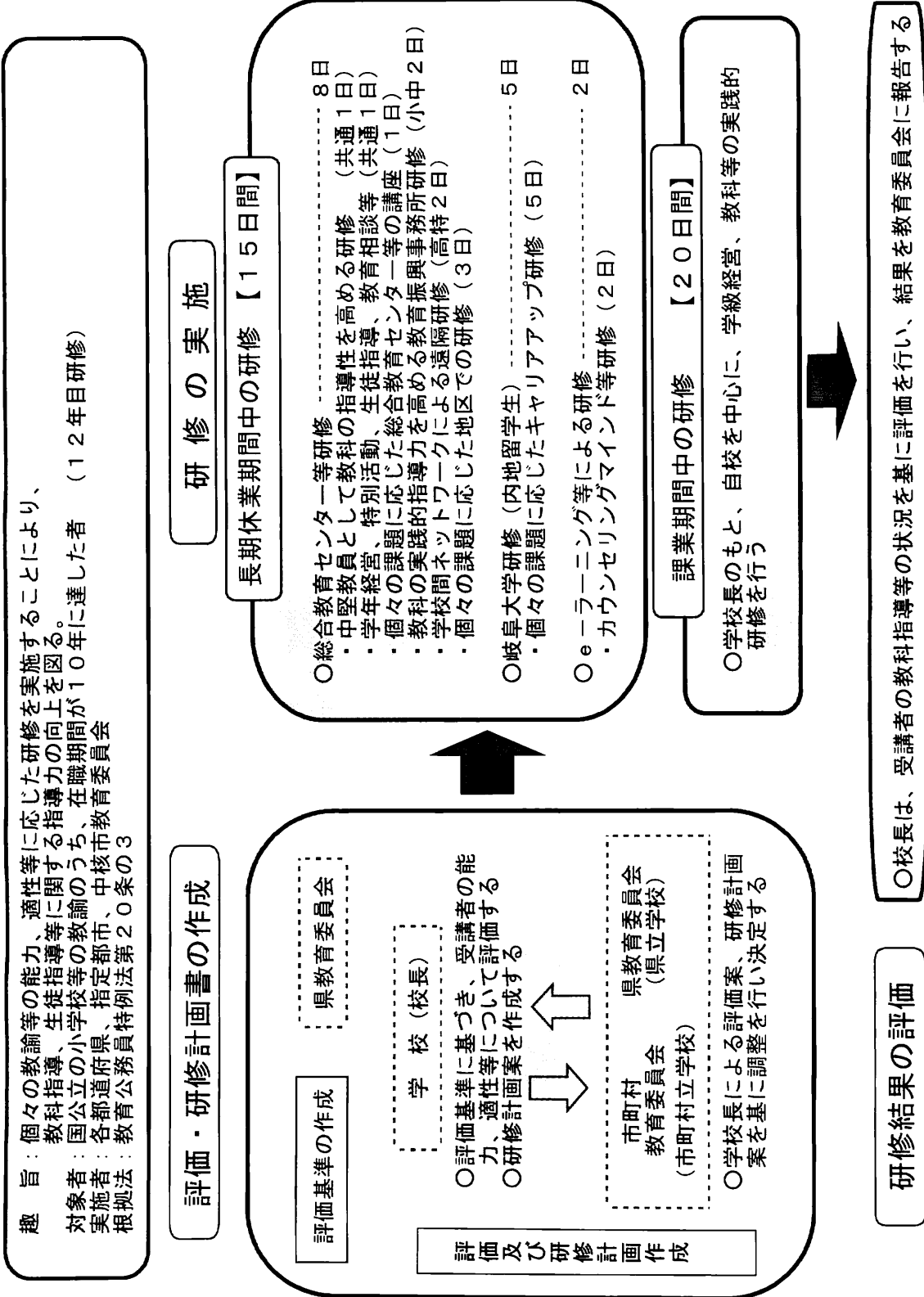
### (付録) 岐阜大学研修の構想と展開に関する関係資料

大学研修の構想当初から現在に至るまでの関係資料を以下に掲載する。これまでの論述ですでに取り上げたものと、取り上げていないものがある。

- 資料1 岐阜県総合教育センター（岐阜県教育委員会研修管理課）から提示された、大学の参画を位置づけた10年経験者研修の全体構想案（2002年11月）
- 資料2 同センターから提示された大学研修第一次構想案（2002年9月）
- 資料3 岐阜大学研修の基本構想とメニューの特徴（平成16年度岐阜大学ホームページ掲載）
- 資料4 平成15年度大学研修の準備と実施のスケジュール
- 資料5 大学研修における担当コース（第一次案）の提示に関する大学院教育学研究科教員への依頼（2002年12月）
- 資料6 「コード番号」－「コース名称」－「担当教員の構想する研修内容(事例)」という枠組の設定、研修コース運営に対する附属学校教員へのアシスト依頼に関する通知（2003年3月）
- 資料7 平成15年度岐阜大学研修コース一覧（岐阜県総合教育センターホームページ掲載）
- 資料8 研修教員向けの手引き「岐阜大学研修（12年目研修）について－趣旨・日程等について－」（平成16年度岐阜大学ホームページ掲載）
- 資料9 岐阜大学研修教員別出欠席・評価票
- 資料10 平成16年度岐阜大学研修コース一覧（岐阜大学ホームページ掲載）

※ ホームページ掲載にあたっては、上田康信氏にたいへんご尽力いただいた。ここに深く謝しておきたい。





教科研修の一環として、岐阜大学において開講される講座を受講し、個々の課題を解決したり発展的な研修をしたりすることで教科の専門性を高め、教科指導力の向上を図る。

- 日数 5日程度
  - ・長期休業中での研修を基本としていますが、一部授業中の受講とすることは可能です。
  
- 対象 12年目を迎える全ての教員（悉皆） 合計559人
  - 小学校：234人 中学校：245人
  - 高等学校：49人 特殊学校：31人
  
- 方法 岐阜大学で開講される講座を受講
  - ・直接岐阜大学で受講する(内地留学生扱い)
  - ・サテライトを使った遠隔講座を受講
  - (一部でも積極的に取り入れていきたいと思っています。)
  
- 内容 教科、研修課題毎の選択研修
  - <例> ア 専門性を高める発展的な研修内容
  - イ 教科の本質や今日的課題を踏まえた指導
  - ウ 個々の教科指導の課題に応えるような研修
    - 勤務校での実践を基にしたレポートを講座で生かす。
    - 講座を受けて勤務校で実践的研究をすすめる。
    - (校内研修とリンク)

## 岐阜大学研修（12年目研修＜10年経験者研修＞）

### 基本構想とメニューの特徴

大学研修のコンセプト：教師経験の省察とキャリアアップ  
 —「振り返り」にもとづく教師としての「可能性と課題」の探究—  
 これまでの教師経験を多様な視点（教科指導、児童生徒理解、学級経営等）から振り返り、自己の実践の再構築（子どもへのまなざしの省察、授業実践力の向上・学校づくりへの参画意識の形成、今日的な教育課題へのスタンスの構築等）を図る学びの場を提供する。そうした学びを通して、学校での教育実践の中核を担い、リーダーシップを発揮する資質の形成が期待される。

特徴

#### 大学研修メニューの特徴

- ①大学院レベルの研究的研修
- ②自己の教師経験・教育実践の省察にもとづく研修の重視
- ③内地留学生としての位置づけを生かした主体的な活動の展開
- ④少人数ゼミ方式による発表と討論
- ⑤各自の研修計画書にもとづく対話・アドバイスの重視  
 —一人学教員の役割の転換—
- ⑥個々の問題意識に対応したキャリアアップとリフレクシ  
 ョンを軸とする多様なメニュー（教科指導、教材開発、  
 児童生徒の発達理解、授業研究、学校運営、今日的教育  
 課題への対応等）の提供

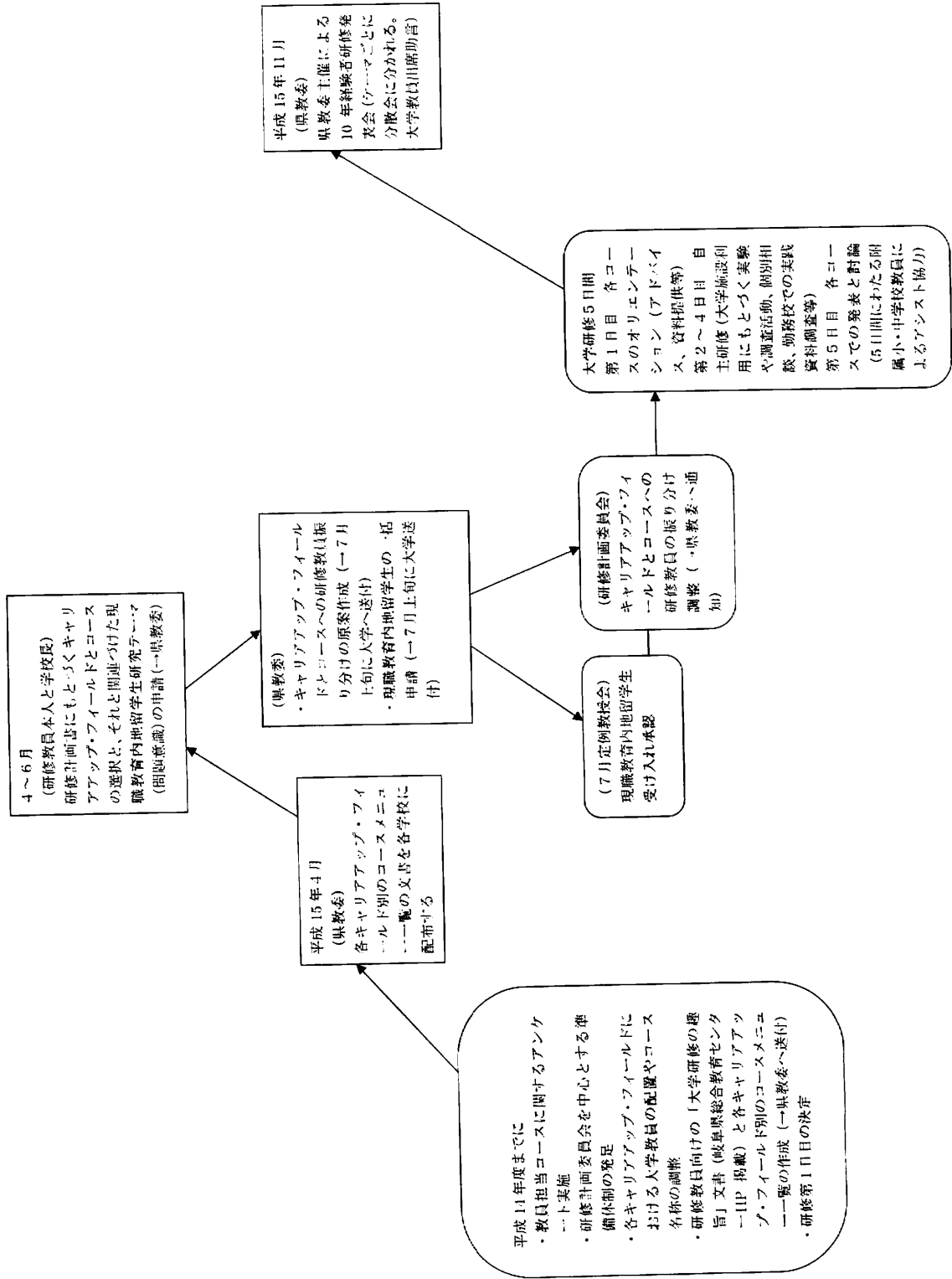
メニュー

キャリアアップ・フィールドとコース

#### 大学研修メニュー：7つの「キャリアアップ・フィールド」のもとでの多様な「コース」の設定

- ① 教科教育キャリアアップ・フィールド
- ② 特殊教育キャリアアップ・フィールド
- ③ 教育相談キャリアアップ・フィールド
- ④ 総合的学習キャリアアップ・フィールド
- ⑤ 児童生徒の発達理解キャリアアップ・フィールド
- ⑥ 学校改善キャリアアップ・フィールド
- ⑦ 学級経営・実践研究法キャリアアップ・フィールド

資料4 大学研修の準備と実施の日程スケジュール



教育学研究科教員各位

10年経験者研修（大学研修）における  
コース担当に関する調査のお願い

平成14年12月18日

研修計画委員会・10年経験者研修WG

すでにこれまでにお伝えしましたように、中央教育審議会が平成14年2月にまとめた答申を受けて、平成15年度より10年経験者研修（校内20日＋校外20日）が法定必修研修として義務化されます。岐阜県内の対象となる教員数（概数）は、校種別に小学校206名、中学校204名、高等学校47名、特殊教育諸学校26名、計483名（※平成12年度9年目研修受講者数を表す）です。

教員養成とともに現職教員の教師教育をこれまで積極的に担おうと努めてきた本学部は、同研修においてどのような役割をはたすべきか、大学での研修の理念をどのように考え、具体的にどんな内容や形態をとればよいかなどをめぐって、岐阜県総合教育センターとこれまで協議を重ねてきました。本学部として、全教員の協力体制のもとに、同研修を進めていきたいと考えております。

つきましては、大学研修メニューマップにある7つのキャリアアップフィールド（①教科教育 ②特殊教育 ③養護 ④総合的学習 ⑤児童生徒の発達理解 ⑥学校改善 ⑦授業研究・学級経営）のいずれかを選択し、そのもとでどのようなコースを担当開講できるか、そのコース名称をご記入ください。魅力ある担当コース名称をご考案いただき、今年中（27日）に総務係へ提出していただきますようお願いいたします。アンケートには2つのコース記入欄をのせてありますが、1つだけでもけっこうですし、2つあるいはそれ以上ご記入いただいてもけっこうです。

コース担当のしかたですが、1つのコースを教員一人でなく、共同担当も可能であり、各講座で個人あるいは共同でどんなコースを立てることができるか相談し、取りまとめを行うなどしてください。キャリアアップフィールドごとのコース数のアンバランスを少なくするために、ご相談の上、担当コースの配置調整を行うことがあります。また来年度になって、研修教員の選択状況によって、コースの統廃合等がありうること、担当コース名称変更をお願いすることがありうることをご承知おきください。

次に、10年経験者研修の趣旨について考えてみたいと思います。

教員になって10年といえば、そろそろ中堅に入り、子どもとの年齢的な差も開いてきて、安定とともに、迷いや硬直化も生じてくるなど、教師のライフステージ上重要な時期にあたると考えられます。この時期にさしかかって、どのような目的ややりがいを見つけるか、そこに周囲の人々や組織からどのようなサポートを受け、どう自己を見つめ直すかということが、その人の今後の成長にとって大きな鍵となると考えられます。

したがって、そうした時期にいる教員の可能性や課題や関心を念頭に置いて、いかなる研修を展開するかということが問題になってきます。研修教員一人ひとりの研修計画書と研究テーマを踏まえつつ、およそ次のような基本的な方向においてコース運営にあたっていただきたいと考えます。

1つには、研修教員がこれまでの実践を振り返って、自分の授業観や子ども観や教材観を問い直し、今後の実践を展開する手がかりをつかむことを支援するものです。どの教師も10年にわたって前に向かって実践を積み重ねてきたなかで、自分としての授業の進め方、子どもの見方、教材づくりなどをめぐる経験を蓄積し、それをなんらかの実践記録（あるいは実践論文）などの形に表してきたはずです。研修教員がみずからの実践記録をじっくりと振り返るなかで自分の実践上の諸問題と可能性を把握し、表現し、その発表と意見交流を行える場を設定し、アドバイスしていただきたいと考えます。

2つには、対応のしかたがわからない問題、現在直面しつつも展望や解決の方向をつかめずにいる問題を、どの教師も感じたり抱えているはずであり、そうした問題の解決に資する知識を得たりスタンスを形成することを支援するものです。どんな問題に直面し、どう取り組もうとしているかをめぐる研修教員の発表と相互交流にアドバイスし、情報提供を行っていただきたいと考えます。

3つには、今後の実践の基盤となる専門的知識を向上させるとともに、それを実践の場でどう生かせばよいかとか、これまで魅力や必要を感じつつも実践に踏み切れずにきたことに取り組みたいといった研修教員のニーズに対応した情報提供やアドバイスを行っていただきたいと考えます。その場合にも、教員側からの単なる一方的な情報提供に終わるのではなく、本人の主体的な資料調査等にもとづく構想発表と相互交流を軸に進めていただきたいと考えます。

まだまだ考えられるでしょうが、およそこのようなことを念頭に置いて、コース名称を設定し、実際にコース担当にあたってください。

## 10年経験者研修（大学研修）教員担当コース調査票

氏名（ ） 専修（ ）

### 担当コース ①

1. キャリアアップフィールドの選択（どれかに丸をうって下さい）

- ①教科教育 ②特殊教育 ③養護 ④総合的学習 ⑤児童生徒の発達理解  
⑥学校改善 ⑦授業研究・学級経営

2. 担当コース名称

( )

### 担当コース ②

1. キャリアアップフィールドの選択（どれかに丸をうって下さい）

- ①教科教育 ②特殊教育 ③養護 ④総合的学習 ⑤児童生徒の発達理解  
⑥学校改善 ⑦授業研究・学級経営

2. 担当コース名称

( )

※なお、選択したキャリアアップフィールドのもとで、どんなコースを設定できるか、下に3つほど例をあげておきます。

①教科教育キャリアアップフィールド

担当コース名称（数学にかかわる総合的な学習の時間のための教材開発とそれにもとづく  
単元構想）

④総合的学習キャリアアップフィールド

担当コース名称（小学校における総合的学習の「評価」を実践に即して考える）

⑦授業研究・学級経営キャリアアップフィールド

担当コース名称（学びへの意欲を育てる授業をどうつくるかー今の授業を見つめ直し、新たな授業像を求めるー）

教育学研究科教員各位

平成15年3月10日  
研修計画委員会

## 12年目研修の担当コースについて(依頼)

来年度より法定必修研修となる12年目研修（10年経験者研修）（課業期間中20日程度＋休業期間中20日程度）のうち、休業期間の研修の5日間を大学研修として実施します。この研修は教員一人ひとりに対する評価にもとづく研修計画にもとづいて行われるものであり、これに対応して、大学研修も教員一人ひとりの可能性と課題に応じた多様で個別的な展開が求められています。

つきましては3点お願いがあります。別紙調査票にご記入の上、早急に3月17日までに総務係に提出願います。（メールでも調査票を送付する予定です。）

1点目、先にどんなコースを担当できるか、アンケートを取らせていただきました。そのアンケート（第1次案）を研修計画委員会・岐阜県総合教育センター合同WGにおいて検討し、別表のようなコース一覧を作成しました。担当コースごとにご記入の上提出願います。4月はじめに県内研修教員にコース一覧を配布するには、時間がありません。よろしくお願い致します。（合同WGにおける検討・修正内容は次ページのとおりです。）

2点目、担当いただくコースの第1日目を、7月末から8月上旬の範囲のなかで決定して記入してください。なお、担当コースと研修第1日目は県総合教育センターHPに掲載される予定です。

研修の日程や進め方等については、5日間の流れを次のように想定しています。（※研修教員に対する大学研修旅費手当は2日間とされています）

（第1日目）担当コースに所属する研修教員メンバーへのオリエンテーション、教員の問題意識や関心に対応したアドバイス、資料提供、討論

（※およそ10時から16時まで、1日あたり研修時間は6時間を標準とする）

この日に、第5日目の日程を協議しておく。（8月中・下旬～9月上・中旬）

（第2～4日目）第1日目の大学教員との協議にもとづく自主研修（第1日目オリエンテーションにもとづく大学施設利用による調査活動、大学教員との個別相談、勤務校での資料調査等）

（第5日目）各大学教員担当コースでの発表と討論

（※各研修教員の発表への評価を行う。大学研修評価票を配布する予定です）

3点目、附属学校の先生方にも、コース運営にご協力いただくことを考えております。大学研修を受ける教員の評価をはじめとするコース運営の責任は大学院教育学研究科教員にあります。コース運営への協力を今後、附属の先生方に直接に打診および依頼していただきたいと思っております。その結果を踏まえて、研修計画委員会として附属学校に協力を依頼する予定です。

各教員に設定していただいたキャリアアップフィールド別コースについて、合同WGにおいて検討ないし修正した主要な点や留意点を次に述べます。

- 「コース」と「担当教員の構想する研修内容（事例）」を示すようにしました。



その意図は、研修教員の評価にもとづく個別的な「研修課題」と、各大学教員から提示されたコース名称を結びつけやすくすることにあります。

各大学教員から先に提示していただいたコース名称を「担当教員の構想する研修内容(事例)」とし、それをもう少し幅を広げたり抽象度を高めた「コース」を設定してみました。このことによって、各大学教員のもとで、「研修内容(事例)」にみるような課題の設定が可能であることを示そうとしました。

研修第1日目において、研修教員はあらかじめ構想・記述しておいた大学研修課題(県教委研修計画書に記載された)をもって大学教員と対話・懇談するなかで、課題を確定します。

- 養護キャリアアップフィールドを教育相談キャリアアップフィールドに改称しました。改称の理由は、先に各教員から提示されたコース名称は養護教諭だけでなく、一般教諭にとっても重要な研修課題となりうることにあります。
- 複数のキャリアアップフィールドに同一のコース名称が提示されているものについては、どちらかに一本化しました。
- 各大学教員の担当する研修教員数を9人以下に設定しました。

複数のコースを担当する大学教員については、1教員につき合計9名になるように各コース定員を便宜的に割り振りました。(例えば、2つのコースを担当する教員には、5人と4人と割り振りましたが、最終的に1教員につき9人の定員に収まれば、一方が5人を超えてもかまいません。)

複数の大学教員で1つのコースを担当する場合は、基本的に「9人×教員数」で定員を割り振りました。同コース担当の教員が研修教員より前もって出されている研修課題をめぐって振り分けの打ち合わせをしたり、研修第1日目と同じ日に設定し、共同で面談するなかで、コース内での大学教員の協力や分担を決めることとなります。

なお、共同担当の大学教員(例えばABCの3人で1コースを担当)のうち、ある教員(A)が別のコースをも単独で担当するという場合、全教員数(この場合3人)×9(=研修教員の大枠数)を、各コースの担当教員数の割合に応じて配分する(この場合3:1)方式を基本とします。

- 多様なコースを設定したいと考えています。複数のコースを提示いただいた教員には、1つのコースに絞るなどの措置をとらずにご担当いただきますようお願いいたします。
- 複数のコースを担当する場合、研修第1日目をコースごとに別個に設定するか、同一の日に合同で行うかを決定してください。できるだけ同一の日に合同で行っていただくのがよいかと考えます。(後掲の担当コース調査票に記入)

## 12年目研修担当コース調査票

コースごとに1枚提出願います。したがって複数のコースを担当する教員はコピーして、コースごとにご記入ください。なお、問い合わせは、研修計画委員会・石川までお願いします。

提出先 総務係（メールでもけっこうです）

締切日 3月17日（月）必着 ※4月はじめに、岐阜県内対象教員（小・中・高・特殊 約480名）に配布する日程上、急ぎ提出願います。

別に配布した「キャリアアップフィールド別コース一覧」の担当コースをご覧いただき、以下1.～4.について、ご記入ください。

1. コード番号（ ）担当教員名（ ）
2. 訂正のない場合は下の括弧に「訂正なし」とご記入ください。  
（ ）この場合、4.にお進みください。
3. 訂正のある場合は、ご記入ください。  
担当教員名（ ）コース名（ ）  
担当教員の構想する研修内容（事例）  
（ ）
4. コース第1日目（7月下旬～8月上旬）をご記入ください。  
第1日目 月 日（ ）（10:00～16:00予定）  
（※1日当たりの研修時間は6時間を標準としています）

附属学校教員への協力依頼をお考えの人は、下の括弧に丸をご記入下さい。なお、協力いただける附属教員名がわかり次第、研修計画委員会（石川）あるいは総務係へご連絡ください。（ ）

## 資料7

## 岐阜県総合教育センターとの連携による岐阜大学研修（10年経験者研修）コース一覧（平成15年度）

キャリアアップフィールド	コード	コース	担当教員の構想する研修内容（事例）	担当教員 （大学院所属専修）	受講者数	初日	会場
①教科教育 (国語)	1001	漢文教育	・高等学校・中学校における漢文教育の課題と教材の選び方	安東 俊六 (国語教育)	1	7/28 (月)	A625研究室
	1002	漢字指導	・漢字の指導（書き順・成り立ち等）	安東 俊六 (国語教育)	4	7/25 (金)	A625研究室
	1003	古典教育	・生徒の関心を高める古典の学習指導	弓削 繁 (国語教育)	3	7/28 (月)	A614研究室
	1004	教材研究と指導法	・文学教材及び話す・聞く教材をとりあげて、現場の国語授業に即した教材研究とティーチング・メソッドを考える	根岸 泰子 (国語教育)	9	7/31 (木)	第2会議室
	1005	言葉への関心	・言葉への関心を引き出す方法の研究・開発	佐藤 貴裕 (国語教育)	9	8/4 (月)	A621
	1007	現代日本語・方言	・現代日本語・方言のしくみ(文法)	山田 敏弘 (国語教育)	1	7/28 (月)	A624研究室
	1008	文章表現指導	・児童の文章表現の見方と国語科学習指導論	小林 一貴 (国語教育)	1	7/28 (月)	A621
	1009	言語表現活動	・国語科授業における言語表現活動の位置づけ	小林 一貴 (国語教育)	8	7/28 (月)	A621
	1010	国語授業の教材開発・教材研究	・小中学校の国語教材開発と教授法	山田 敏弘 (国語教育)	4	7/31 (木)	A624研究室
	教科教育 (社会等)	1101	博物館	・社会科指導における博物館の利用	北 俊夫・伊東 久之 (社会科教育)	2	7/24 (木)
1102		小学校歴史学習	・小学校歴史学習における「人物」の取扱い	北 俊夫・早川 万年 (社会科教育)	10	7/25 (金)	A510
1103		社会科学習の今日的課題Ⅰ	・社会科学習の今日的課題～地理分野～	小林 浩二・大関 康宏 (社会科教育)・野元 世紀 (カリキュラム開発)	10	7/22 (火)	第3会議室
1104		社会科学習の今日的課題Ⅱ	・社会科学習の今日的課題～歴史(西洋史)分野～	矢橋 透・勝田 俊輔 (社会科教育)	2	7/22 (火)	A506研究室
1105		社会科学習の今日的課題Ⅲ	・社会科学習の今日的課題～公民分野～	小澤 克彦・小林 月子・佐賀 徹哉・坂内 栄夫・澤田 眞治 (社会科教育)	11	7/22 (火)	A510
教科教育 (算数・数学)	1201	教材開発Ⅰ	・数学教育の発展的学習課題の教材開発研究	竹内 茂 (数学教育)	3	7/22 (火)	A426
	1202	教材開発Ⅱ	・数学の良さを伝える教材の開発	愛木 豊彦 (数学教育)	9	7/25 (金)	A426
	1203	学習指導Ⅰ	・数学を楽しく意欲的に学ぶことを目指しての教材開発と授業改善	岩田 恵司 (数学教育)	12	7/25 (金)	A410
	1204	学習指導Ⅱ	・算数・数学の相談にのります。いっしょに考えましょう	山田 雅博 (数学教育)	9	8/6 (水)	A510
	1206	数学の世界	・数楽の楽しみと数学超入門	藤本 圭男 (数学教育)	1	7/25 (金)	A409 第2ゼミ室
教科教育 (理科)	1301	化学実験Ⅰ	・簡単な有機化学実験	利部 伸三 (理科教育)	3	7/22 (火)	A棟2階 中実験室
	1303	植物教材開発	・植物に関する教材開発	高橋 弘 (理科教育)	1	8/8 (金)	A311
	1305	遺伝子の世界	・遺伝子組換え植物の現状と将来性	松本 省吾 (理科教育)	1	7/25 (金)	A311
	1306	地学教材開発	・理科における教材開発について(とくに地学分野)	小井土山光 (理科教育)	1	7/28 (月)	A201
	1307	現代科学技術	・科学技術の雰囲気を味わう～現代科学技術の背景～	佐藤 節子 (理科教育)	2	8/5 (火)	A221
	1308	教材開発と指導法	・児童生徒に感動を与える理科授業：教材開発と指導の工夫	川上 紳一 (理科教育)	6	7/20 (日)	B301
	1309	物理学実験Ⅰ	・小中学校理科・物理分野に関する基礎実験	川崎 守・仲澤 和馬 (理科教育)	2	8/1 (金)	A313

	1311	指導力向上	・理科が苦手な先生への理科教育相談・再学習	山内 克典・小林 正典・尾崎 浩巳・川崎 守・仲澤 和馬・佐藤 節子・利部 伸三・吉松 三博・高橋 弘・松本 省吾・古屋 康則・佐々木嘉三・川上 紳一・小井土山光(理科教育)	2	8/1(金)	A304
教科教育(音楽)	1402	歌唱表現Ⅰ	・歌唱における発声及び表現	八神 利夫(音楽教育)	1	7/28(月)	E204研究室
	1403	歌唱表現Ⅱ	・美しいハーモニーを作るための声(ヒビキ)の出し方について～母音、子音の特性を認識することから～	植松 峻(音楽教育)	3	7/28(月)	E102研究室
	1404	合唱指揮方法	・ダイナミックな合唱をするための合唱指揮(指導)の方法について	植松 峻(音楽教育)	2	7/28(月)	E102研究室
	1405	器楽指導	・器楽指導の課題	朝田 健(音楽教育)	1	7/28(月)	E206
	1406	ソルフェージュ	・ソルフェージュ、そして聴くことの意味～ピアノを使って～	讃岐 京子(音楽教育)	1	8/4(月)	E205
	1407	教材研究と授業改善	・教材研究と授業改善	朝田 健(音楽教育)	6	7/31(木)	E206
	1410	音楽科授業分析	・音楽科における授業分析を通じた子どもの思考・表現過程の解析と教授行為の有効性の検討	松永 洋介(音楽教育)	1	7/28(月)	E103研究室
教科教育(図画工作・美術)	1501	学習指導法	・図画工作科・美術科の学習指導方法の工夫	富岡 卓博(美術教育)	5	7/24(木)	D211
	1502	授業研究	・図工・美術科における授業研究～「造形遊び」「鑑賞活動」「評価」～	辻 泰秀(美術教育)	2	7/28(月)	D211
	1503	絵画	・絵画表現とその教材	佐藤 昌宏(美術教育)	3	7/31(木)	D211
	1504	デザイン	・伝達表現(デザイン)の指導とその教材のあり方	水野 雅善(美術教育)	1	7/31(木)	D205
	1505	工作・工芸	・工作・工芸表現とその教材	谷 登志雄(美術教育)	1	8/1(金)	D105(工芸室)
	1506	彫塑	・彫塑表現とその教材	河西 栄二(美術教育)	2	8/4(月)	D101
教科教育(体育・保健体育)	1602	領域別指導法Ⅱ	・安全な柔道指導を実践するために	古田 善伯(カリキュラム開発)	1	7/25(金)	F108研究室
	1603	領域別指導法Ⅲ	・陸上運動にかかわる諸問題	原田 憲(保健体育)	3	7/28(月)	第2体育館多目的研修室
	1605	領域別指導法Ⅴ	・教科体育(器械運動)の指導方法について～できない子どもへの指導・動作分析からみた指導～	山脇 恭二(保健体育)	5	7/22(火)	F201
	1606	領域別指導法Ⅵ	・教科体育「ゲーム」「ボール運動」の指導について	杉森 弘幸(保健体育)	4	7/28(月)	F105
	1607	領域別指導法Ⅶ	・「表現」「ダンス」の指導について	熊谷 佳代(保健体育)	1	7/28(月)	F201
	1608	領域別指導法Ⅷ	・運動内容(種目)に応じた授業研究の諸問題	原田 憲一・杉森 弘幸・熊谷 佳代(保健体育)	1	7/28(月)	F201
	1609	トレーニング法Ⅰ	・状況認知能力、状況判断能力の育成とスポーツビジョントレーニング～ボール運動、球技を題材にして～	川岸典志男(保健体育)	6	7/28(月)	F201
	1610	トレーニング法Ⅱ	・運動部活動で活用できる新しいトレーニング法の開発	古田 善伯(カリキュラム開発)	3	7/31(木)	F108研究室
	1612	発達と体育指導	・発育発達特性に留意した体育指導法の開発	古田 善伯(カリキュラム開発)	1	7/28(月)	F108研究室
教科教育(技術)	1701	教材開発と指導・評価	・技術科教育における教材開発および指導と評価	吉田 昌春・湯川 敏信・江馬 諭・尾高 広昭・小原 光博(技術教育)	7	7/28(月)	D215
教科教育(家庭)	1801	教材開発	・家庭科教育における生活の創造を目指した教材開発	夫馬佳代子(家政教育)	6	7/28(月)	A419
	1802	家庭科カリキュラム	・今、家庭科教育に何が求められているのか～欧米の家庭科教育カリキュラムから探る～	夫馬佳代子(家政教育)	1	7/25(金)	A419

	1803	食領域の教材開発	・食領域の基礎基本の教材開発	長野 宏子 (家政教育)	4	7/25 (金)	A431
教科教育 (英語)	1902	英文学教育	・文学と教育～「英文学」教育のありようをめぐる～	伊藤徳一郎 (英語教育)	1	8/4 (月)	A603研究室
	1903	指導法Ⅰ	・生徒の学習意欲を高める英語の言語事実の提示の方法	後藤 正統 (英語教育)	2	7/28 (月)	A602研究室
	1904	指導法Ⅱ	・英語教育：とくに中学校・高校における基礎・基本を目指す授業研究	寺島 隆吉 (英語教育)	5	7/24 (木)	A508研究室
	1905	指導法Ⅲ	・英語教育と文法～コミュニケーションアプローチでの「文法」の意義～	廣田 則夫 (英語教育)	3	8/4 (月)	A616
	1906	指導法Ⅳ	・最新の言語習得理論を授業実践にどう生かすかを考える	大和 隆介 (英語教育)	2	8/6 (水)	A615研究室
②特殊教育	2001	進路指導・就労支援	・養護学校における進路指導の展開と県内の就労支援施設についての情報交換	谷崎 毅 (障害児教育)	2	8/5 (火)	A106研究室
	2002	注意欠陥多動性障害	・注意欠陥多動性障害と療育	三牧 孝至 (障害児教育)	5	7/25 (金)	A111 (演習室)
	2003	理解と支援Ⅰ	・特別な教育的ニーズをもつ子どもの理解と支援	池谷 尚剛 (障害児教育)	5	8/1 (金)	A107研究室
	2004	理解と支援Ⅱ	・発達障害児の理解と支援～事例指導を通して～	神野 幸雄 (障害児教育)	5	8/4 (月)	障害児教育実践センター2F 図書資料室
	2005	理解と支援Ⅲ	・自閉性障害児の理解と支援～事例指導を通して～	神野 幸雄 (障害児教育)	4	8/4 (月)	障害児教育実践センター2F 図書資料室
	2006	言語発達支援	・言語発達支援に関する研究	小山 正 (障害児教育)	5	7/28 (月)	障害児教育実践センターH205研究室
	2007	教育課程編成	・知的障害児教育における子ども主体の教育課程編成のあり方について	坂本 裕 (障害児教育)	5	7/28 (月)	A111 (演習室)
③教育相談	3001	不登校Ⅰ	・不登校・保健室登校に対する教育支援	宮本 正一 (学校教育)	7	7/28 (月)	A707
	3002	不登校Ⅱ	・睡眠覚醒障害を有する児童の教育支援	山崎 捨夫 (学校教育)	1	7/28 (月)	医学部看護学科6F 研究室
	3003	不登校Ⅲ	・不登校事例の検討	橘 良治 (学校教育)	4	7/28 (月)	A720
	3005	不適応	・不適応児童、生徒の事例研究	伊藤 宗親 (学校教育)	3	8/1 (金)	第3会議室
	3006	児童生徒理解	・児童生徒の心の理解を促進する教員自らの生いたちのふりかえり～教育相談への応用に向けて～	鈴木 壮・緒賀 聡 (学校教育)	18	7/31 (木)	A530
④総合的学習	4002	人間の生き方Ⅱ	・総合的学習における障害理解教育の実践	池谷 尚剛 (障害児教育)	2	8/8 (金)	A107研究室
	4003	国際理解Ⅰ	・小学校国際理解教育・英語活動のカリキュラム作り	松川 禮子 (カリキュラム開発)	2	7/28 (月)	A601研究室
	4004	国際理解Ⅱ	・異文化理解の可能性～ことば(母語・異言語)と文化に関する多様な考察を行う	伊東 英 (カリキュラム開発)	5	7/28 (月)	A209
	4005	国際理解Ⅲ	・外国人児童生徒に対する日本語教育	山田 敏弘 (国語教育)	1	7/28 (月)	A624研究室
	4006	国際理解Ⅳ	・英語教育にかかわる総合的学習(とりわけ国際理解教育)の教材開発と授業計画の構想	寺島 隆吉 (英語教育)	3	7/24 (木)	A508研究室
	4007	情報Ⅰ	・マルチメディアと情報倫理に関する教材開発	田阪 茂樹 (カリキュラム開発)	2	7/28 (月)	地域科学部 共通教育棟 3F
	4008	情報Ⅱ	・情報通信ネットワーク活用による情報活用能力育成	村瀬康一郎 (カリキュラム開発)	7	8/5 (火)	総合情報メディアセンター C102

	4009	環境	・環境とライフスタイルの観点から小学校における総合的学習の時間の教材開発と評価法を考える	杉原 利治・大藪 千穂 (家政教育)	8	7/31 (木)	第3会議室
	4010	総合的課題	・生活にかかわる総合的学習	渡辺 光雄 (家政教育)	6	7/22 (火)	A417
	4011	食教育Ⅰ	・食生活を初めとして運動その他の生活行動と健康との関わりに関する資料収集とその教材化・授業構想の立案	馬路 泰蔵 (家政教育)	1	7/24 (木)	A421
	4013	食教育Ⅲ	・地産地消食材で健康な食生活の教材開発	長野 宏子 (家政教育)	2	7/25 (金)	A431
	4015	教材開発Ⅰ	・総合的学習のトピック別教材開発	原田 信之 (学校教育)	4	7/28 (月)	A715
⑤児童生徒の	5001	発達心理	・動物との比較から子どもの発達を理解する	大井 修三 (学校教育)	9	8/4 (月)	B204
発達理解	5002	行動と脳の機能	・行動と脳の機能から児童生徒を理解する	山崎 捨夫 (学校教育)	3	7/28 (月)	医学部看護 学科6F 研究室
	5003	軽度発達障害	・軽度発達障害 (LD・ADHD・高機能自閉症など) の理解と対応	別府 哲 (学校教育)	9	7/28 (月)	A510
	5004	言語通級教室	・言語による表現に問題のある子どもへの支援	廣嵩 忍 (障害児教育)	3	7/25 (金)	A103研究室
⑥学校改善	6002	学校評価	・自校評価・授業評価のプログラムをデザインする	篠原 清昭 (学校教育)	1	7/22 (火)	A708研究室
	6003	学校指導者論	・中間的なスクール・リーダーとしての方法論を考える	篠原 清昭 (学校教育)	2	7/22 (火)	A708研究室
	6004	学校改善	・自校の学校改善プログラムを考える	篠原 清昭 (学校教育)	4	7/22 (火)	A708研究室
	6005	情報環境	・学校の情報環境構築のあり方	村瀬康一郎 (カリキュラム開発)	2	8/5 (火)	総合情報メ ディアセン ター C102
	6006	情報手段のデザイン	・教育活動を支援する情報手段の活用をデザインする	加藤 直樹 (カリキュラム開発)	2	7/28 (月)	総合情報メ ディアセン ター C102
	6007	学社連携・融合	・学社連携・融合による開かれた学校づくり	森田 政裕・益川 浩一 (カリキュラム開発)	3	8/5 (火)	総合情報メ ディアセン ター A館 研修室2F
⑦学級経営・	7001	学級づくり	・学級づくり(生徒自治論)	吉田 和子 (学校教育)	9	7/28 (月)	A715
実践研究法	7002	教育情報データベース	・教材等の教育情報データベースの共同利用を考える	加藤 直樹 (カリキュラム開発)	4	7/28 (月)	総合情報メ ディアセン ター C102
	7003	教材開発	・インターネット上のデジタルコンテンツを利用した教材の設計・開発・評価を行う	益子 典文 (カリキュラム開発)	9	8/1 (金)	B301
	7004	授業研究と教師の成長	・学びへの意欲が育つ授業をどうつくるか～今の授業を見つめ直し、新たな授業像を求める～	石川 英志 (学校教育)	6	7/25 (金)	A715
	7005	授業分析	・教師のセンスをみかく授業分析の方法	石川 英志 (学校教育)	3	7/25 (金)	A715
	7007	体験学習	・地域や学校の特色を生かした体験学習の実践	辻 泰秀 (美術教育)	2	7/25 (金)	D211

※開設されたが、受講希望する研修教員がいなかったコースは一覧表より省いた。

## 岐阜大学研修（12年目研修）について —趣旨・日程等について—

岐阜大学教育学部  
研修計画委員会

平成15年度より「10年経験者研修」が法定研修としてスタートしました。岐阜県では、これまで実施されてきた「12年目研修」の一環として位置づけられています。この研修は、課業期間中20日程度＋休業期間中20日程度行われるもので、休業期間中の研修のうち5日間は、「岐阜大学研修」として行われます。15年度に続き、16年度も、実施に向けた準備が進められています。

この文書は、岐阜大学研修の趣旨・日程等について簡単に説明したものです。よく読んで、大学研修に臨んでください。

### 1 趣旨

はじめに、大学研修の趣旨を説明します。

教員になって10年といえば、そろそろ中堅に入り、子どもとの年齢的な差も開いてきて、安定とともに、迷いや硬直化も生じてくるなど、教師のライフステージの上で、重要な時期にあたると考えられます。この時期にさしかかって、どのような目的ややりがいを見つけるか、そこに周囲の人々や組織からどのようなサポートを受け、どう自己を見つめ直すかということが、その人の今後の成長にとって大きな鍵となると考えられます。

したがって、そうした時期にいる教員一人ひとりの可能性や課題や関心にできるだけ即するように努め、おおよそ次のような三つの基本的な方向において、大学研修を行いたいと考えます。

一つには、これまでの自らの実践そのものを振り返って、自分の授業観や子ども観や教材観をこの時点で見つめて、今後の実践をより発展的に展開する手がかりをつかむことを支援しようとするものです。

10年にわたって、前に向かって実践を積み重ねてきたなかで、自分としての授業の進め方、子どもの見方、教材づくりなどをめぐる経験を蓄積し、自分なりのスタイルを形づくり、それをなんらかの実践記録や実践論文の形に表してきたはずです。

みずからの実践をじっくりと振り返るなかで、自分の持ち味や問題意識をとらえ、表現し、その発表と教員どうしの意見交流を行いたいと考えます。

二つには、対応のしかたがよくわからない問題、展望や解決の方向をつかめず、何とかしなければという意識が空回りし、自信を失いつつあるといった、教師の生き方にかかわる問題に直面している人への支援です。そうした問題の解決に資する知識を得たり、取り組む姿勢を自分のなかに形づくることを応援しようというものです。どんな問題に直面し、どう取り組もうとしているかをめぐる教員相互のコミュニケーションを軸に、大学側からも情報や視点の提供を行いたいと考えます。

三つには、今後の実践の基盤となる専門的知識の向上につなげるとともに、それを実践の場でどう生かせばよいかとか、これまで魅力や必要を感じつつも実践に踏み切れずにきたことに取り組みたい、といったニーズに対応した情報提供やアドバイスを行うものです。この場合にも、大学側からの単なる一方的な情報提供に終わるのではなく、教員本人の主体的な問題追究を重視したいと考えます。

次に、大学研修の全体の構造を示します。

〔[岐阜大学研修の基本構想とメニューの特徴](#)〕参照

基本テーマ：教師経験の省察とキャリアアップ

—「振り返り」にもとづく教師としての「可能性と課題」の探求—

研修の特徴：・大学院レベルの研究的研修

・自己の教育実践や経験の振り返りの重視

・大学での現職教育内地留学生（6ヵ月）としての位置づけを生かした、大学施

設等の活用にもとづく主体的な活動の展開

(研修教員は全員、現職教育内地留学生となります。附属図書館の場合、名簿が送付されますので、図書館窓口で申請すれば仮カードが発行してもらえます)

・大学院教育学研究科の全教員協力体制にもとづく少人数ゼミ形式による発表と研究活動と討論

・研修教員の多様な問題意識や関心に対応した多様で実践的なメニューの提供

メニュー構成：七つのキャリアアップ・フィールド（「教科教育」「特殊教育」「教育相談」「総合的学習」「児童生徒の発達理解」「学校改善」「学級経営・実践研究法」）のもとの多様な「コース」の設定（キャリアアップ・フィールド別のコース一覧を参照）

## 2 日程

5日間にわたる研修の日程や進め方等を次のように考えています。なお、5日間というのは、研修日程が合わせて5日間、ということの意味しています。したがって連続5日間に限定されたものではありません。一日あたりの研修時間は、10時に開始し、16時に終了することを標準としています。

(第1日目)

コースに所属する研修教員メンバーの自己紹介、オリエンテーション、問題意識や関心に対応した大学教員からのアドバイス、資料提供、討論

大学教員との対話や、同じコースに入った他の教員との懇談のなかで、自らの研究課題や研究方法等をより具体的なものとします。

(第2～4日目)

第1日目の大学教員との協議にもとづく自主研修（第1日目オリエンテーションにもとづく大学施設利用による調査研究活動、大学教員との個別相談、ブラックボードを利用した大学教員との連絡や相談、勤務校での資料調査や実践分析等）

(第5日目)

各コース内での発表と討論（研修を通して学び得たことや今後の実践への取り組みの展望を中心に）

## 3 暴風等警報発令時の対応

岐阜県教育委員会研修管理課発行「研修講座運営の手引き」に準拠するものとします。

研修教員は、道路・交通状況を考慮し、学校長の指導を受けて、出欠席を決定。

●午前10時前に発令の場合。

⇒ 午前7時までに解除された場合、平常どおり実施。

⇒ 午前9時までに解除された場合、午後より実施。

⇒ 午前9時以降に解除された場合、中止。

●午前10時以降に発令の場合。

⇒ 気象・道路・交通状況等から判断し、継続・中止等について、

岐阜大学教育学部と岐阜県教育委員会との協議で決定。

なお、大学研修についての問い合わせや相談は、大学院学校教育専修（教育学部学校教育講座）・石川英志 ([iskwhite@cc.gifu-u.ac.jp](mailto:iskwhite@cc.gifu-u.ac.jp)) まで願います。





資料10 平成16年度岐阜大学研修コース一覧（岐阜大学ホームページ記載）

※研修教員にはじめに提示したコース一覧。よって受講者ゼロのコースも含む。

コース名	小・中学校における漢字指導	コード	担当教員	大学院専修 会場	初日	最終日	定員
コース名	漢字指導というところ、とかく新出漢字をノートに10回書かせるとか、小テストをすとかして、児童生徒に嫌悪感を抱かせこそすれ、効果を上げ得ていないことが多い。嫌悪感を抱かせずに効果を上げるには指導法にどのような工夫が必要であるのか、それを考える。準備しておくものは、従来の指導の簡単な報告のみ。	EZT041101	安東 俊六	国語教育 A608	7月21日（水）	8月27日（金）	4
コース名	中学校における漢文教育の諸問題	EZT041102	安東 俊六	国語教育 A608	7月21日（水）	9月22日（水）	3
コース名	国語教育のあゆみ	EZT041103	安 直哉	国語教育 A613	7月21日（水）	9月22日（水）	7
コース名	中学古典の学習指導と評価	EZT041104	弓削 繁	国語教育 A614	7月27日（火）	8月23日（月）	7
コース名	国語の基礎学力	EZT041105	根岸 泰子	国語教育	8月2日（月）	9月3日（金）	7

初日：A.530  
最終日：A.510  
人数が2人以下  
の場合は研究室

コース名

コース内容

言葉への関心を引き出す方法の研究・開発

児童・生徒たちに言葉への関心・興味・好奇心を起すような授業を展開するために、どんな工夫があるかを考える。各自の工夫を披露しあい、情報交換し、よりよいものに高めていければと思う。

コード

担当教員

大学院専修  
会場

EZT041106

佐藤 貴裕

国語教育  
A608

第一日目 8月3日(火)

第五日目 9月16日(木)

定員 7

コース名

コース内容

文法を活かした教材研究

光村の1年国語教科書に「くじらぐも」という文章があります。その3ページ目と4ページ目には子どもたちと先生が空に上っていく絵がありますが、4ページ目の最後には「あとというまに、〜くものくじらにのってしまいました。」と書いてあります。絵と文章が違った表現をしているのに気が付いていますか？また、3年国語の「三年とうげ」で「3年きりしか生きられぬ」と言っているのにもかわらず、2回ころべば6年生きられるという若者の考えに首をひねったことはありませんか？

文法的に考えることによって、文章の読みは深まります。子どもたちへの説明のしかたも変わります。みなさんがこれから行う研究授業に、文法的な読みを取り入れて、より深めていきませんか？このコースでは、受講する人の希望する単元について、文法を活かして考えを深めていきます。もちろん文法そのものをもっと深めたいという方も大歓迎です。

なお、本コースでは研修第5日目を9月中旬に設定し、二期開始から研修5日までの期間になるべく多くの研修生の学校を訪問し、授業を見せていただく予定です。

コード

担当教員

大学院専修  
会場

EZT041107

山田 敏弘

国語教育  
A624

第一日目 7月23日(金)

第五日目 9月17日(金)

定員 4

コース名

コース内容

作文の見方 ー理論と実践ー

国語科の教科内容という観点から作文の見方に関する論を検討し、作文の処理や評価の具体的な方法について議論する。

(コースの初回の授業では、授業担当者が資料を準備する。)

コード

担当教員

大学院専修  
会場

EZT041108

小林 一貴

国語教育  
A608

第一日目 8月2日(月)

第五日目 8月30日(月)

定員 4

コース名

コース内容

国語科の授業における書くことの指導法

作文指導に関する議論における書くことの学習内容に関する論点について整理し、国語科の単元における書く活動の位置づけと具体的な指導法について検討する。

(コースの初回の授業では、授業担当者が資料を準備する。)

コード

担当教員

大学院専修  
会場

EZT041109

小林 一貴

国語教育  
A608

第一日目 8月5日(木)

第五日目 9月3日(金)

定員 3

(5人以下の場合  
合はA611)

6 教科教育(社会)

コース名 中国の文化と社会

コース内容 主に古典思想(古代ではない)を取り上げて、中国古典文化における精神世界の一端に触れる事を目標にする。対象時代・テーマ等の設定に関しては、各自の力量によって決定する。用意するものは特でない。

コード  
担当教員  
大学院専修  
会場

EZT041201  
坂内 栄夫  
社会科学教育  
研究室  
(A516)

第一日目 7月21日(水)  
第五日目 9月2日(木)  
定員 7

コース名 生活から見た世界史

コース内容 世界史を嫌う高校生は少なくないと思われる。その理由としては、第一に、異文化の話なので親近感がわかない、第二に、過去の話なので重要性を感じられない、といったところではないだろうか。このコースでは、こうした嫌悪感をぬぐい去るための試みとして、「生活から見た世界史」を考える。現代の日本人の生活を構成するさまざまな物品や生活の様式のうちから主題を選び、それらを切り口にして世界史の授業を行う可能性を検討する。

コード  
担当教員  
大学院専修  
会場

EZT041202  
勝田 俊輔  
社会科学教育  
A511

第一日目 7月21日(水)  
第五日目 9月30日(木)  
定員 7

コース名 地理-地域調査の実践

コース内容 地域調査の実践について考察することにした。具体的には、研修教員がこれまでおこなった地域調査を題材にして、地域調査の意義、問題点・課題を検討することにした。研修教員が準備しておくこと：これまで研修教員がおこなった地域調査についての資料(学習指導案等)

コード  
担当教員  
大学院専修  
会場

EZT041203  
小林 浩二  
社会科学教育  
B527

第一日目 7月21日(水)  
第五日目 9月10日(金)  
定員 7

コース名 中学校社会科における地理的な見方・考え方を培う方法とその評価

コース内容 1) 授業案に関する討議 2) 試験問題に関する討議 事前準備：地理的な見方・考え方を培うための授業案(1時限分、A4, 1枚) 持参すべきもの：授業案、指導要領解説、教科書、地図帳

コード  
担当教員  
大学院専修  
会場

EZT041204  
大関 泰宏  
社会科学教育  
第2会議室

第一日目 7月23日(金)  
第五日目 8月31日(火)  
定員 7

コース名 小学校における歴史学習

コース内容 小学校社会科における人物を取り上げた歴史学習について、教材、指導方法、学習過程などの観点から検討する。

コード  
担当教員  
大学院専修  
会場

EZT041205  
北 俊夫  
早川 万年  
社会科学教育  
A510

第一日目 7月28日(水)  
第五日目 9月16日(木)  
定員 7

コース名 西洋史研究と世界史教育

コース内容 欧米の西洋史研究の新しい流れを紹介し、その世界史教育への取り込みの可能性を探る。

コード  
担当教員  
大学院専修  
会場

EZT041206  
矢橋 透  
社会科学教育  
研究室  
(A506)

第一日目 7月27日(火)  
第五日目 8月31日(火)  
定員 7

<p>コース名 公民科教育（国際関係・政治学分野）の現代的課題</p> <p>コース内容 社会科学の公民科教育における国際関係・政治学分野の問題を扱う。とくに湾岸戦争以後の国際関係や政治分野における現象の理解を深めることで、世界秩序の変動について同時代への批判的な視座の構築に努めることにしたい。</p>	<p>コード 担当教員 大学院専修 会</p>	<p>EZT041207</p> <p>澤田 眞治 社会科学教育 A 539</p>	<p>第一日目 7月21日（水） 第五日目 9月30日（火） 定員 7</p>
<p>コース名 小・中における博物館等の利用</p> <p>コース内容 学校と博物館との相互利用について考える。まず第一には、子供が博物館をどう利用するかについて共に考えてみたい。もしも、図書館を利用するならば、本を読む習慣をいかに身につけるかということがまず考えられる。図書館で静く本を読むことの楽しさを知る訓練である。まさか図書館にイベントを見に行くわけがない。同じように、博物館でも展示をじっくり見楽しむ習慣をつける必要があるが、ほとんど顧みられなかった。日本人は子供も親も教員も博物館利用が下手である。イベント的に利用するのは美術館にとっても博物館にとっても本来の姿ではない。どうすれば学芸員が作り上げた展示をきちんと見て楽しむことができるか、それにはどのような誘導を行うべきなのか、実際の博物館学芸員も交えて研究してみたい。</p>	<p>コード 担当教員 大学院専修 会</p>	<p>EZT041208</p> <p>伊東 久之 社会科学教育 A 507</p>	<p>第一日目 8月2日（月） 第五日目 9月13日（月） 定員 7</p>
<p>コース名 社会科・公民科における法教育の可能性</p> <p>コース内容 裁判員制度、法ネットワークの整備拡充など、政府が進めている司法改革を踏まえて、法務省で現在検討している社会科・公民科教育における法教育に関する議論を資料によって検討する。その上で、現行の学習指導要領の枠の中で、系統的な法教育を実践することの可能性、法教育の内容のあり方などを考える。資料は当方で用意する。使用教科書、学習指導要領持参のこと。</p>	<p>コード 担当教員 大学院専修 会</p>	<p>EZT041209</p> <p>佐賀 徹哉 社会科学教育 A 539</p>	<p>第一日目 8月2日（月） 第五日目 8月31日（火） 定員 7</p>
<p>コース名 西洋思想・宗教</p> <p>コース内容 現在の混迷の時代を見とるには人間の物の考え方のありよう、変容、展開を振り返る必要があります。ここでは宗教と哲学に視点をおきます。</p>	<p>コード 担当教員 大学院専修 会</p>	<p>EZT041210</p> <p>小澤 克彦 社会科学教育 研究室 (A518)</p>	<p>第一日目 8月2日（月） 第五日目 9月6日（月） 定員 7</p>
<p>コース名 少子・高齢社会の現状と課題</p> <p>コース内容 現在、日本社会は急速な勢いで少子・高齢化が進行している。高齢者介護は今日の日本社会のおおきな問題である。本コースでは、社会問題・人権問題としての介護問題の現状と課題をいくつかの国のそれと比較しながら考察し、このなかで教育の果たす役割・可能性を考える。</p>	<p>コード 担当教員 大学院専修 会</p>	<p>EZT041211</p> <p>小林 月子 社会科学教育 A 606</p>	<p>第一日目 7月27日（火） 第五日目 9月9日（木） 定員 7</p>

01 教科教育(算数・数学)

コース名 日常に現れる算数・数学

コース内容 児童生徒の算数数学に対する興味関心を高めることをねらいとした授業案の開発をねらいとする。通常の教科の発展的な授業、教科選択「数学」や「総合的な学習の時間」における算数的活動・教学的活動に位置づけられるような題材について考察する。受講者間での討議をもとに教材開発を進めていく予定である。

EZT041301

愛木 豊彦  
数学教育  
A426

第一日目 7月27日(火)  
第五日目 8月25日(水)  
定員 7

コース名 算数・数学に関する相談があれば

コース内容 実際に1時間分の指導案を作成してもらい、それらについて相談にのります。自分としての重点をはっきりさせます。あるいは、自分のねらいを明確にし、1時間1時間の中でどうやってねらいを実現していくかなどを一緒に考えたいと思います。

EZT041302

山田 雅博  
数学教育  
A426

第一日目 8月2日(月)  
第五日目 8月27日(金)  
定員 7

コース名 応用数学の立場から数学を眺める

コース内容 数学は、諸科学の進展により新しい概念を誕生させ発展し、また逆に数学の進展と共に新たな視点を諸科学に与えることもあります。このコースの目的は、数学のこのような側面、特に、数学の応用能力の多様性について理解と認識を深め、数学教員としての素養を向上させることにあります。準備してほしいこと：数学への知的好奇心を持つこと

EZT041303

石渡 哲哉  
数学教育  
A426、A410、  
A409等

第一日目 7月27日(火)  
第五日目 9月13日(月)  
定員 7

コース名 楽しく良く分かる 算数・数学

コース内容 算数・数学の授業の内容・方法の工夫

EZT041304

竹内 茂  
数学教育  
A409

第一日目 8月2日(月)  
第五日目 9月6日(月)  
定員 7

コース名 現代数学の最前線

コース内容 高校卒業程度の予備知識をネタに、数学最前線と如何につながっていくかを考えてみたいと思います。数学教材開発とは別物になるかと思えます。数学のセミナーとして予定し、数学への好奇心、数学書を読む耐久力等が必要です。

EZT041305

藤本 圭男  
数学教育  
A409

第一日目 7月21日(水)  
第五日目 8月26日(木)  
定員 7

コース名 数学・算数・教育

コース内容 (1)12年間の教育経験を振り返って見て、出てきた問題点を提出してもらい、その解決方法を探る；または(2)[数学・算数]教育の雑誌を読み、どんな話題が扱われているかを調べてみる。

EZT041306

畑田 一幸  
数学教育  
A409  
(またはA410)

第一日目 7月23日(金)  
第五日目 9月30日(木)  
定員 7

算数・数学教育における学習指導法の改善の視点

コース名

コース内容

コード

担当教員

大学院専修

会場

EZT041307

岩田 恵司

数学教育

A426

第一日目 8月9日(月)

第五日目 8月27日(金)

定員 7

コース名

コース内容

コード

担当教員

大学院専修

会場

EZT041401

高橋 弘

理科教育

A310

第一日目 8月9日(月)

第五日目 9月6日(月)

定員 4

植物に関する教材開発  
生物分野の教育を行う場合、様々な方面から、様々な生物を教材にして教えることにより、より深く理解させることができると思う。また、教科書や指導書にはない教材を多数持つていて、臨機応変にそれらを使うことが、生徒の興味を引き出すために重要であると思う。このコースでは、特に生物分野を苦手とする先生を対象に、身近な植物を用いた教材の開発を旨とする。  
植物学の中で教材開発を望む分野を明確にしておいて下さい。

コース名

コース内容

コード

担当教員

大学院専修

会場

EZT041402

佐藤 節子

理科教育

A221

第一日目 8月5日(木)

第五日目 8月24日(火)

定員 4

磁石への理解を深める  
小学校3年と6年理科に磁石、電磁石に関わる単元がある。このコースは、小学生への直接の指導内容ではなく、教師が、磁石の起源、物質の磁性はどこから来るかということについての理解を深めることを目的とする。また私達と磁石の結びつきを調べ、それらの内容から、教材への発展性を探る。

コース名

コース内容

コード

担当教員

EZT041403

山内 克典

小林 正典

尾崎 浩日

川崎 守

仲澤 和馬

利部 伸三

佐藤 節子

吉松 博弘

高橋 省吾

松本 康則

古屋 康則

小井土由光

川上 紳一

第一日目 7月27日(火)

大学院専修 会場	理科教育 A304	第五日目 定員	8月27日(金) 47
コード 担当教員 大学院専修 会場	EZT041404 小井土 由光 理科教育 A201	第一日目 第五日目 定員	7月27日(火) 8月下旬 (受講者と相談) 4
コード 担当教員 大学院専修 会場	EZT041405 松本 省吾 理科教育 A311	第一日目 第五日目 定員	7月23日(金) 8月27日(金) 3
コード 担当教員 大学院専修 会場	EZT041406 松本 省吾 理科教育 A311	第一日目 第五日目 定員	7月30日(金) 8月27日(金) 2
コード 担当教員 大学院専修 会場	EZT041407 川崎 守 仲澤 和馬 理科教育 A313	第一日目 第五日目 定員	8月2日(月) 相談の上決定 3
コード 担当教員 大学院専修 会場	EZT041408 川崎 守 仲澤 和馬 理科教育 A313	第一日目 第五日目 定員	8月2日(月) 相談の上決定 3

地学分野(環境・災害を含む)に関する教材開発  
 足元(校下)の自然を扱うことで、理学分野で学習する内容が身の回りの現  
 象を理解するための勉強であることを児童・生徒に伝えられる理科教師を目指  
 す。あらかじめ取り上げる対象物の候補を挙げておくことが望ましい。

リンゴの秘密  
 1 リンゴ受精の秘密: 動けない植物のお嬢さん選び  
 2 岐阜県で作出されたリンゴ品種「飛騨」の秘密  
 リンゴは一本の木だけでは受精しても実なりません。  
 結実には品種の異なる木を受粉樹として使う必要があります。リンゴの木は  
 どうやって自分の花粉と他人の花粉を見分けているのかについて考えます。ま  
 た、飛騨の出生の秘密について解説します。

光と生物  
 ・ 私たちと他の生物との間でもの見え方などのような違いがあるのでしょ  
 うか。昆虫から見た花の世界について紫外線写真の実験的な取り方を含めて解  
 説します。  
 ・ ウミホタル、ホタルの生物発光実験を解説します。  
 ・ 光合成反応の実験系について新たな視点から考えます。

物理学実験 I  
 小中学校理科・物学分野に関する基礎実験

物理学実験 II  
 高等学校・物学分野に関する基礎実験



コース名

楽しく学ぶ理科授業

コース内容

小中学校の理科、特に第2分野（生物・地学）あるいは、総合学習における環境教育における魅力的な教材と指導法を開発し、授業実践によって、その有効性を検証する。  
テーマは、天体望遠鏡を用いた月、金星の観察、人工衛星の観測を取り入れた星座学習、地層のでき方や露頭の観察、酸性雨の測定など、教科書の学習内容を踏まえ発展させる。  
高等学校については、理科総合Bの指導法に関する研修を行う。

EZT041409

川上 伸一  
理科教育  
A206

第一日目 7月23日（金）  
第五日目 相談の上決定  
定員 3

コード

担当教員  
大学院専修  
会場

コース名

理科学習の内発的動機づけ

コース内容

（内発的動機付け）児童生徒が楽しく学習できるためには、動機付けが必要になる。その動機付けの方法として、新奇性刺激を取り入れた理科実験観察法の具象例を示して言及する。また、認知的不調和（ズレ、葛藤）を利用した活動場面の構成法について、小、中理科の内容を事例にして解説検討する。また、自己決定や自己有能感に基づく動機づけ方法についても解説検討をする。一方、日本の理科嫌い、理科離れ現象についても、その元凶を考察していく。

EZT041410

尾崎 浩巳  
理科教育  
A313

第一日目 7月23日（金）  
第五日目 9月27日（月）  
定員 3

コード

担当教員  
大学院専修  
会場

コース名

理科学習における創造性の開発と評価法

コース内容

（創造性について）小中理科における創造性教育の必要性を21世紀社会の在り方から考察検討した上で、創造性開発法を理科授業で取り入れる方法を示す。また、創造的思考能力の測定方法について解説する。その後、創造性測定法を作成したり得点化したりする演習を行う。

EZT041411

尾崎 浩巳  
理科教育  
A313

第一日目 7月23日（金）  
第五日目 9月27日（月）  
定員 2

コード

担当教員  
大学院専修  
会場

コース名

理科実験－化学－

コース内容

理科（化学）実験の進め方とレポートの書き方を講義する。研修生に簡単な有機合成化学実験をおこなって、レポートを提出していただく。準備していただくもの：当日は実験衣。また、理科実験の生徒の実際のレポートを2、3報前もって提出していただければ、研修の題材にしたいと思います。

EZT041412

利部 伸三  
理科教育  
化学中実験室

第一日目 7月30日（金）  
第五日目 8月27日（金）  
定員 4

コード

担当教員  
大学院専修  
会場

コース名

化学分野基礎実験

コース内容

高等学校化学分野の基礎実験を予定しています。当日は白衣を持参して下さい。

EZT041413

吉松 三博  
理科教育  
A223

第一日目 7月27日（火）  
第五日目 8月6日（金）  
定員 4

コード

担当教員  
大学院専修  
会場

コース名

コース内容

楽しく学ぶ生物の実験・観察

個々の教員の要望に応じて、生物の実験や観察の方法を指導します。  
 教材生物としては主にメダカなどの魚類の他、目的に応じた生物種を用い  
 ますが、動物に限らせていただきます。また、理科教育だけでなく、環境教育も  
 視野に入れた生物（動物）の分布調査や実験の方法などについても相談に応じ  
 ます。

コード

担当教員  
 大学院専修  
 会場

EZT041414

古屋 康則  
 理科教育  
 A 334

第一日目 7月21日 (水)  
 第五日目 9月 3日 (金)  
 定員 4

コース名

コース内容

音楽授業の改善と構想

- (1) ねらい  
 自分の授業を分析することによって、陥りやすい欠点に気づくとともに改善  
 への視点をもつことができるようにする。
- (2) 内容の概要
- ・ 授業をビデオに録画し、文書化する。
  - ・ 作成した記録を、映像やワークシートなどを合わせて比較検討する。
  - ・ 自分の授業の傾向を分析する。
- (3) 準備しておくこと
- ・ 自分で授業を企画し実施する。
  - ・ 授業をビデオで録画するとともに、ねらいに即したワークシートをつくること。
- 以上の資料を研修の際持参すること。

コード

担当教員  
 大学院専修  
 会場

EZT041501

松永 洋介  
 音楽教育  
 研究室  
 (音楽棟 E103)

第一日目 7月30日 (金)  
 第五日目 8月25日 (水)  
 定員 7

コース名

コース内容

教材研究と授業改善

教材曲の成り立ち、歌詞の内容などを分析研究することにより、指導を具  
 体的に考えていく。  
 題材と教師、教材と教師、教材と児童生徒など様々な角度から、授業のあり  
 方、方法などを改善するきっかけを探ろうとする。  
 準備：実践記録などをもとに具体的な課題を設定すること

コード

担当教員  
 大学院専修  
 会場

EZT041502

朝田 健  
 音楽教育  
 E 206

第一日目 7月28日 (水)  
 第五日目 8月26日 (木)  
 定員 3

コース名

コース内容

音楽指導の課題

低学年における音楽の扱い、中高学年における音楽指導のあり方などを考える。  
 中学校においては、課外活動も含め、音楽指導の改善を研究する。  
 音楽活動をアンサンブル（共同作業）の視点から考える。  
 準備：実践記録などをもとに具体的な課題を設定すること

コード

担当教員  
 大学院専修  
 会場

EZT041503

朝田 健  
 音楽教育  
 E 206

第一日目 7月28日 (水)  
 第五日目 8月26日 (木)  
 定員 4

コース名

コース内容

声楽における発声指導法  
声域を通じ斑のない響きと、明るく澄んだ音色を、各個人に応じて理論と実践から求める発声指導

コード

担当教員  
大学院専修  
会場

EZT041504  
八神 利夫  
音楽教育  
研究室  
(音楽棟 E204)

第一日目 7月27日 (火)  
第五日目 8月23日 (月)  
定員 7

コース名

コース内容

創作教育の問題点と評価

概要：音楽教育における、根本的な認識の誤りを点検し、その観点から、音楽教育・創作教育・評価を考える。  
準備しておくこと：現場で行われている創作教育の実態調査レポートを作製しておくこと。

コード  
担当教員  
大学院専修  
会場

EZT041505  
佐原 秀一  
音楽教育  
E 203

第一日目 7月21日 (水)  
第五日目 8月23日 (月)  
定員 7

コース名

コース内容

耳をひらいて心まで  
ピアノ演奏。ピアノを弾く喜びを再び思い出しましょう。  
リルフェージュ等を交えながら、簡単なピアノ曲から高度な技術を要する作品まで受講生に合わせて行います。  
基本がマンツーマンなので、少人数で開講したい。

コード  
担当教員  
大学院専修  
会場

EZT041506  
讀枝 京子  
音楽教育  
E 205

第一日目 8月 3日 (火)  
第五日目 8月26日 (木)  
定員 7

コース名

コース内容

美しい声、伸びやかな声について  
美しい音楽、伸び伸びとした元気のいい音楽、どちらもとても重要だが、伸び伸び元気のいい音楽の陥る弱点、美しい音楽の陥る弱点について考えてみる。

コード  
担当教員  
大学院専修  
会場

EZT041507  
植松 峻  
音楽教育  
研究室  
(音楽棟 E102)

第一日目 7月30日 (金)  
第五日目 8月27日 (金)  
定員 4

コース名

コース内容

パフォーマンスとしての指揮 (法)  
一般に指揮と言うと細部の指揮技術に目がいってしまいが、教育に於ける、指揮は指導者の呼吸でいかに子供達をある種のファンタジーに満ちた世界へ導くかという大変大切なもので、その呼吸と身体について研究してみたいと思っている。

コード  
担当教員  
大学院専修  
会場

EZT041508  
植松 峻  
音楽教育  
研究室  
(音楽棟 E102)

第一日目 7月30日 (金)  
第五日目 8月27日 (金)  
定員 3

コース名

コース内容

地域社会と音楽  
地域共同体における音楽他語芸能のあり方を調査し、学校音楽教育との接点を探る。特に社会的に非主流である人々の音楽・芸能活動を研究すること、バランスのとれた授業内容の構築を目指す。フィールド調査が主となる。調査対象となる集団と円滑にコミュニケーションがとれることが必要。多文化主義について、事前調査しておくことが望まれる。

コード  
担当教員  
大学院専修  
会場

EZT041509  
青柳 孝洋  
音楽教育  
青柳研究室  
(E105)

第一日目 7月21日 (水)  
第五日目 9月30日 (木)  
定員 7

01 剣道教育（指導）

**コース名** 表現およびダンスの指導について  
**コース内容** 表現およびダンスの指導における諸問題について、現状を分析し解決の糸口を見つける。準備するものとして過去の授業実践、もしくは今後実践予定のものがあれば提示していただく

コード  
 担当教員  
 大学院専修  
 会場  
 会

EZT041601  
 熊谷 佳代  
 保健体育  
 F 201

第一日目 7月27日（火）  
 第五日目 8月27日（金）  
 定員 7

**コース名** 陸上競技・陸上運動に関する諸問題  
**コース内容** 陸上競技及び学校体育授業における陸上運動において、課題・練習方法・指導方法・成果の評価等。今までに先生方が行ってこられた指導や実践の記録を基に、反省・批判を加えながら、問題点を見つけてだし、指導に役立つ観点と、その方法（論）を探究する。

コード  
 担当教員  
 大学院専修  
 会場  
 会

EZT041602  
 原田 憲一  
 保健体育  
 F 101

第一日目 7月28日（水）  
 第五日目 初日に決定  
 定員 4

**コース名** 体育授業に関する整理と探求  
**コース内容** 学校体育授業における運動において、目標・課題・指導課程・指導方法・評価等。今までに先生方が行ってこられた実践の記録を基に、反省・批判を加えながら、問題点を見つけてだし、教育目標に沿った指導に役立つ観点と、その方法（論）を探究する。

コード  
 担当教員  
 大学院専修  
 会場  
 会

EZT041603  
 原田 憲一  
 杉森 弘幸  
 熊谷 佳代  
 保健体育  
 F 101

第一日目 7月27日（火）  
 第五日目 初日に決定  
 定員 3

**コース名** 発育・発達段階を考慮した体力トレーニング法の開発  
**コース内容** このコースでは、従来の体力トレーニング法が児童・生徒の発育・発達段階に合ったものになっているかという視点からトレーニング内容などを再検討し、新しいトレーニング理論に基づき体力トレーニング（体力づくり）法の開発を試みる。

コード  
 担当教員  
 大学院専修  
 会場  
 会

EZT041604  
 古田 善伯  
 カリキュラム  
 開発  
 F 105

第一日目 7月27日（火）  
 第五日目 8月24日（火）  
 定員 3

**コース名** 剣道指導法  
**コース内容** 初心者、初級者を対象とした剣道指導法について、現場での指導上の問題点を踏まえながら検討を行う。研修には平成15年3月に県スポーツ科学トレーニングセンターが作成した剣道指導の手引きを使用する。また、熱中症の予防、剣道運動における酸化ストレスについても最近の知見も含め取り上げたい。

コード  
 担当教員  
 大学院専修  
 会場  
 会

EZT041605  
 今井 一  
 保健体育  
 第二体育館  
 多目的研修室

第一日目 8月2日（月）  
 第五日目 9月17日（金）  
 定員 7

コード  
 担当教員  
 大学院専修  
 会場

EZT041606  
 山脇 恭二  
 保健体育  
 F101

器械運動の指導方法について  
 器械運動における動きの改善のための指導方法を考えたい。もしこの研修を希望したい教員については、できない子どもやめやかに動ける動きなどをビデオ撮影して頂きたい。ビデオ撮影に際して、カメラを三脚などで固定して、シャッタースピードは1/250秒以上で撮影して頂きたい。このビデオを元に、指導方法を紹介したい。また、運動ができる服装の準備もお願いしたい。

第一日目 8月2日(月)  
 第五日目 8月20日(月)  
 定員 7

コード  
 担当教員  
 大学院専修  
 会場

EZT041607  
 杉森 弘幸  
 保健体育  
 F105

ボール運動・球技の学習指導とその評価 ～侵入型ゲームを例に～  
 本コースでは、ボール運動・球技の評価をこれまでの反省や課題から再検討してみよう。そのために、過去の授業実践をお互いの資料として提示していただく。コース担当者からは「球技(ボール運動)特有の運動課題」、「ゲーム指導の観点とその方法」、「ゲームのパフォーマンス評価」等の資料を提示するが、本コースの受講者はその他の知見も収集した上で、新たな授業研究に着手していただきたい。

第一日目 7月27日(火)  
 第五日目 9月9日(木)  
 定員 7

コード  
 担当教員  
 大学院専修  
 会場

EZT041608  
 川岸與志男  
 保健体育  
 F201

ビジュアルトレーニングとその測定・評価  
 ～ボール運動や球技を題材にして～  
 部活動や教科体育における児童生徒の技能の向上を図るためには、体力や技術の向上を図ることは勿論のこと、その運動を行なう意識やルールといった概念的知識の他に、実際の活動場面が必要とされる状況把握、状況判断といった知的能力(手続的知識)の育成が重要で。しかし、その場その場の状況を把握し、適切な判断をしてプレーしていくための情報処理能力(手続きの熟達化)、とりわけ情報の大半を占める視覚情報に関する測定や評価は為されてこなかったのではと思えます。このコースでは、スポーツビジュアルと呼ばれる視機能に関する概略、測定の実際、各種スポーツにおけるビジュアルトレーニングの実際について、先行研究、先行実践の資料を基に学習します。【事前の準備】テキストとしても使用する下記図書を購入してください。真一策 編「スポーツビジュアル(第2版)ースポーツのための視覚学ー」ナツブ社、2,300円

第十日目 7月23日(金)  
 第五日目 9月24日(金)  
 定員 7

コード  
 担当教員  
 大学院専修  
 会場

EZT041609  
 渡邊 義行  
 保健体育  
 F101

学校体育(水泳)  
 学校(小・中・高校)における教科体育・水泳に関する指導法、プール管理、疾病などについて疑問、問題点などを出し、その解決法について探求する。

第一日目 7月28日(水)  
 第五日目 9月30日(木)  
 定員 7

コード  
 担当教員  
 大学院専修  
 会場

EZT041610  
 古田 善伯  
 カリキュラム  
 開発  
 F105

安全で効果的な柔道指導法の開発  
 このコースでは、従来の柔道の指導法について特に安全面から総合的に分析・検討し、発達段階に応じた安全で効果的な柔道指導法を開発することを試みる。

第一日目 7月30日(金)  
 第五日目 8月25日(水)  
 定員 4

01 教育課程（技術教育）

コース名 技術科教育における教材開発および指導と評価

コース内容 準備：各自の研修テーマ、大学での研修に至るまでの取り組み、大学での研修方法や研修計画について、A4 1ページ程度にまとめておくこと。

コード  
担当教員  
大学院専修

EZT041701  
吉田・湯川  
江馬・尾高  
小原  
技術教育  
D215

第一日目 7月28日（水）  
第五日目 7月28日に決定  
定員 35

コース名 情報とコンピュータ

コース内容 情報通信ネットワークシステムの構築

コード  
担当教員  
大学院専修

EZT041702  
松原 正也  
技術教育  
総合情報メ  
ディアセンタ  
ー  
C207

第一日目 7月28日（水）  
第五日目 初日に相談の上決定  
定員 7

コース名  
コース内容

食の安全・衛生面からの教材開発と指導の工夫  
小学校学習指導要領の中では、「それぞれの調理に必要な用具や食器を取り上げて、安全と衛生に注意して取り扱う事ができるようにする」となっている。実際に調理する食材の面から食の安全・衛生面を考えてみたい。

コード  
担当教員  
大学院専修

EZT041703  
長野 宏子  
家政教育  
A431

第一日目 7月28日（水）  
第五日目 9月14日（火）  
定員 4

コース名  
コース内容

家庭科の実習指導法  
家庭科を楽しく主体的に学び、さらに創造性を育てる実習の指導法について、相互に交流し実践することを目的としています。授業で、工夫した実践事例、写真、作品などがありません。実習の準備は必要ありません。

コード  
担当教員  
大学院専修

EZT041704  
夫馬 佳代子  
家政教育  
A419

第一日目 7月21日（水）  
第五日目 8月30日（月）  
定員 7

コース名  
コース内容

彫塑表現とその教材  
実際の授業を想定した彫塑教材の制作を行う。又は、塑造（土粘土、石膏、テラコッタ、ピューター・鑄造など）・木彫（樟、榿、バルサ、桂など）・石彫（大理石、教材にある擬似石材など）といった素材を選び小品の彫刻制作を行う。それらを通して、彫塑における素材や道具の扱い方をさらに詳しく理解し、表現力を高めることを目的とする。事前にメール（kasate@cc.gifu-u.ac.jp）で内容を協議し、初日から作業着で来て下さい。

コード  
担当教員  
大学院専修

EZT041801  
河西 栄二  
美術教育  
D101

第一日目 8月2日（月）  
第五日目 9月8日（水）  
定員 7

コース名

コース内容

美術制作・指導の基礎

美術教育の目標として、「美術の創造活動の喜びを味わい・・・豊かな情操を養う。」ことがあげられています。そのためには、先ず教師自身が美術に興味を持ち、制作や指導を通してそれを実践して行く必要があると考えています。そこで、このコースでは、創作する者の立場から表現する喜びや、美術の意味について考察していきたいと思えます。

コード

担当教員  
大学院専修  
会場

EZT041802

佐藤 昌宏  
美術教育  
D211

第一日目 7月28日 (水)  
第五日目 8月27日 (金)  
定員 7

コース名

コース内容

工芸と工作

工芸及び工作領域における題材開発と学習課程の組み立て方、指導構想、評価の方法等について

コード

担当教員  
大学院専修  
会場

EZT041803

谷 誉志雄  
美術教育  
D105

第一日目 8月2日 (月)  
第五日目 9月8日 (水)  
定員 7

コース名

コース内容

図画工作科における授業研究一子どもの学びを創り出す一

図画工作科の内容を、小学校の教科書や授業記録をもとにして研究する。特徴的な授業実践のビデオ記録を考察することによって、図画工作科における教材観・授業設計・授業展開・支援や評価の方法等について理解を深める。造形遊び、材料からの発想、自然体験、鑑賞教材、個性化・個別化、IT、地域素材、総合学習、ワークショップ、基礎基本の考え方、評価方法等について実践的にアプローチする。

コード

担当教員  
大学院専修  
会場

EZT041804

辻 泰秀  
美術教育  
D211

第一日目 7月27日 (火)  
第五日目 8月25日 (水)  
定員 4

コース名

コース内容

美術科における教材・カリキュラム研究一思春期の美術教育のあり方一

現代の美術文化の状況や生徒たちの実態を踏まえながら、造形意欲を引き出す美術教育の内容や方法を検討する。中学生や高校生の造形表現の特性、知的好奇心についての理解を深めるとともに、特徴的な教材開発の事例についてビデオ記録や文献を通して考察する。表現と鑑賞の関連性、美術館やアーティストの活用、ワークショップ、工芸教材、映像教材、アメリカの美術教育、校種間の連携、評価方法等について取り上げる。

コード

担当教員  
大学院専修  
会場

EZT041805

辻 泰秀  
美術教育  
D211

第一日目 7月28日 (水)  
第五日目 8月26日 (木)  
定員 3

コース名

コース内容

美術教育の学習指導改善の視点

図画工作・美術科における教育原理にふれながら、学習指導計画の改善と題材開発の視点をしめす。今日的な教育課題の研修とともに、研修者が実践してきた指導内容を具体的に検証して可能な改善策を検討する。研修者自身の実践内容を示す資料を準備すること。

コード

担当教員  
大学院専修  
会場

EZT041806

雷岡 卓博  
美術教育  
D211

第一日目 8月2日 (月)  
第五日目 8月27日 (金)  
定員 3

コース名

コース内容

新しい鑑賞教育法

これまでの美術教育では、生徒に作品を「作らせる」ことに重点をおいていたが、むしろ作品を「見せる」こと、作品をどのように見ればいいのか、その授業方法について新たな提案を行う。なぜ「作る」ことよりも「見る」ことを重視するのか、その理由と効果について考察し、小・中学校の各学年で、どのような作品を見せ、それをどのように見ていくのか、具体的に考えていく。

コード

担当教員  
大学院専修  
会場

EZT041807

野村 幸弘  
美術教育  
D211

第一日目 8月2日 (月)  
第五日目 8月30日 (月)  
定員 7

コース名

コース内容

デザイナーの教材・指導について

今まで取り扱ってきたデザイナーの教材内容・指導方法を今日的視点から再検討し、デザイナーの教材・指導を今後どのようにすべきかを展望する。

コード

担当教員

大学院専修  
会場

EZT041808

水野 雅普

美術教育  
D205

第一日目 8月2日(月)

第五日目 8月31日(火)

7

コース名

コース内容

生徒の学習意欲を高める教材の内容と提示の方法

生徒の学習意欲と学習効果の間には密接な関連性がある。そして、生徒の学習意欲を高めるのに有益な方法の1つは教材の内容と提示の方法である。本コースでは楽しく、かつ効果的な授業にとつて不可欠である生徒の学習意欲を高める方法について、研修教員の実践報告を土台にしつつ改善をはかる。

コード

担当教員

大学院専修  
会場

EZT041901

後藤 正紘

英語教育  
A602

第一日目 8月2日(月)

第五日目 8月30日(月)

4

コース名

コース内容

よくわかる授業と学習の評価について

今まで理解できなかった授業の内容を生徒が理解できるようにするために、教師は何をすべきか。また、生徒の努力と成果をどのように評価すべきかを具体的な事例の分析・検討を中心として研修教員とともに考えていく。

コード

担当教員

大学院専修  
会場

EZT041902

後藤 正紘

英語教育  
A602

第一日目 8月5日(木)

第五日目 9月7日(火)

3

コース名

コース内容

英語教育における評価

現場で直面している評価の問題を通して英語教育とはどうあるべきかを考える。あらかじめ参考文献『英語にとって評価とは何か』（あすなろ社／三友社出版）を読んでおくことが望ましい。

コード

担当教員

大学院専修  
会場

EZT041903

寺島 隆吉

英語教育  
研究室  
(A508)

第一日目 7月27日(火)

第五日目 8月27日(金)

3

コース名

コース内容

小中高が連携した英語カリキュラム・学習指導について考える

小学校の国際理解を目指す中での英語活動、中学校の音声言語活動主体の指導、高校の4技能バランスの取れた指導。それぞれ学校の学校における学習指導が、より効果的なものとなるように、①各職種における指導のあり方、②各校種間の連携のあり方について共に考えていくコースです。

コード

担当教員

大学院専修  
会場

EZT041904

大和 隆介

英語教育  
研究室  
(A615)

第一日目 8月5日(木)

第五日目 9月8日(水)

7

コース名

コース内容

「コミュニケーション」と文法

従来、「文法」といった場合、それは文レベルの文法を指すことが多かったと思われる。しかしながら、「個々の文の作り方—構文」を覚えきても、状況に応じた文の使い方は、つまり個々の構文が、談話内でのような動きをもつかが、実感されなければ、その知識は、単なる知識のまま終わってしまう。本コースでは、主に中学校で扱われる文法項目（構文）について、これまでの文法の本を越えて、いわば、「コミュニケーション文法」(文法とは、本来、そうあるべきものだが)の観点から考えていきたい。

コード

担当教員

大学院専修  
会場

EZT041905

廣田 則夫

英語教育  
A617

第一日目 8月2日(月)

第五日目 8月27日(金)

7



コース名 詩やドラマを教材に使った英語授業—オールイングリッシュを目標に

コース内容 簡単な詩やドラマの一部を教材として取り上げ、内容を重視しながら、生徒が表現力豊かに英語が使えるようになるための、基本練習法を、授業用英語の使い方とともに考える。使いたい教材を持参し、授業案を考えてくること。

コード 担当教員  
大学院専修  
会場

EZT041906 西澤 康夫  
英語教育  
A 530

第一日目 7月21日 (水)  
第五日目 8月20日 (金)  
定員 4

コース名 英語教育における文学教材の利用法について

コース内容 中学及び高校の英語授業において、英米の文学作品を教材として取り入れることの可能性について考える。  
英米の詩や小説を具体的な例として教材に選び、その利用法について実践的に学ぶことをねらいとする。教材は適宜配布。

コード 担当教員  
大学院専修  
会場

EZT041907 伊藤徳一郎  
英語教育  
A 603

第一日目 8月 5日 (木)  
第五日目 9月 3日 (金)  
定員 7

02 障害児教育

コース名 個別の指導計画 (知的障害児教育)

コース内容 近年、知的障害児教育の学校教育において盛んに導入されている「個別の指導計画」、さらには、「個別の指導計画」と学習指導案をもとにして、その記述内容等に検討を加える。1学期に作成した「個別の指導計画」、学習指導案を持参する。

コード 担当教員  
大学院専修  
会場

EZT042001 坂本 裕  
障害児教育  
A 111

第一日目 7月28日 (水)  
第五日目 9月15日 (水)  
定員 7

コース名 障害児教育実践—事例指導を通して—

コース内容 大学研修初日のオリエンテーションの後、岐阜大学教育学部附属障害児教育実践センターで8月中旬に開催するサマースクールに実習参加する(2日程度)。そこで担当した事例をもとに、後日事例研究をする。

コード 担当教員  
大学院専修  
会場

EZT042002 神野 幸雄  
障害児教育  
神野研究室  
(H204)

第一日目 7月30日 (金)  
第五日目 9月 3日 (金)  
定員 7

コース名 学校教育から社会生活への移行支援

コース内容 養護学校等を卒業する生徒の生活を見通した支援のあり方について理解を深める。

コード 担当教員  
大学院専修  
会場

EZT042003 谷崎 毅  
障害児教育  
A 106

第一日目 7月28日 (水)  
第五日目 9月 8日 (水)  
定員 7

コース名 言語障害児の理解と指導

コース内容 通常学級に在籍する言語障害をもつ児童生徒への学級での配慮のあり方について考察することを目的とする。

コード 担当教員  
大学院専修  
会場

EZT042004 廣瀬 忍  
障害児教育  
A 103

第一日目 8月 3日 (火)  
第五日目 9月 2日 (木)  
定員 7

コース名 特別支援学校のセンター的役割について

コース内容 特別支援学校にもコーディネーターが位置付けられているのに伴い、特別支援学校のセンター的役割として検討し、地域の関係諸機関との連携を具体的な調査をとおして検討を進めたい。

コード 担当教員 大学院専修 会場

EZT042005 池谷 尚剛 障害児教育 研究室 (A204)

第一日目 8月2日(日)

第五日目 9月13日(月)

定員 4

コース名 発達障害児の気になる・困っている行動の理解と指導

コース内容 発達障害のある児童生徒の気になる・困っている行動をどのように理解し、指導していけばよいかについて、行動理解アセスメントを用いて、参加者の事例を分析し、問題解決方法を明らかにする。

1日目：行動理解アセスメントの概要を講習し、参加者の事例を記入することを課題とする。

5日目：参加者の事例を元に、問題解決方法を検討する。

コード 担当教員 大学院専修 会場

EZT042006 平澤 紀子 障害児教育 附属障害児教育 実践センター・ 図書資料室

第一日目 7月27日(火)

第五日目 8月30日(月)

定員 7

コース名 児童・生徒の理解(アセスメント)

コース内容 問題行動を呈していたり、気がかりな児童・生徒にいかにかかわるのか、その手だてを考える前提として、まず、彼(女)を正確に理解すること(アセスメント)が必要である。本コースでは、そうしたアセスメントに必要な多角的な視点やその方法について学ぶ。なお、参加には、具体的な事例の提供が必要。

コード 担当教員 大学院専修 会場

EZT043001 伊藤 宗親 学校教育 第3会議室

第一日目 7月28日(水)

第五日目 9月2日(木)

定員 7

コース名 不登校の検討

コース内容 研修教員の事例を基礎に、不登校の基本的問題、心理テストの方法と判定、保護者への対応について理解を深める。

コード 担当教員 大学院専修 会場

EZT043002 橋 良治 学校教育 A707

第一日目 7月23日(金)

第五日目 9月3日(金)

定員 7

コース名 不登校や学級内で指導困難な子どもへの対応

コース内容 不登校や学級内で指導困難な子どもへの対応について事例検討を行う。必ず自分が対応している(していた)事例を提供できることが受講の条件である。学校心理学を基礎にしたケースレポートを完成させることが宿題である。

コード 担当教員 大学院専修 会場

EZT043003 宮本 正一 学校教育 A707

第一日目 7月27日(火)

第五日目 8月27日(金)

定員 7

コース名

Monsters and Magical Sticks を読む

コース内容

カウンセリングを含めあらゆるコミュニケーションの中には催眠の要素が含まれている。その理解を深めるため、参加者で分担し、"Monsters and MagicalSticks There's no such thing as hypnosis?" (Heller, 1987 New Falcon Publications) (全191頁) の全訳を行う。分担部分はコピーして配布するが、購入して通読することが望ましい。

コード

EZT043004

担当教員  
大学院専修  
会場

緒賀 郷志  
学校教育  
A 209

第一日目 7月23日 (金)  
第五日目 9月30日 (木)  
定員 7

コース名

教育相談の事例検討

コース内容

学校現場での教育相談について事例検討する。まず、受講者に自分が関わった教育相談事例を具体的に詳細に報告してもらう。その後、その事例について全員でさまざまな観点から討議する。それに講師(鈴木)がコメントを加える。そうすることで、児童生徒の問題への理解のしかた、教師と児童生徒との関わり方、話し方の聴き方等について学ぶ。同時に、受講者自身の心理的問題(課題)にも触れることになり、教師としてのあり方を振り返ることになる。受講者は、相談事例を必ず提示・報告しなければならない。その際、結果やまとめではなくて、児童生徒と関わった経過を具体的に詳細に記録し、それを報告しなければならない。

コード

EZT043005

担当教員  
大学院専修  
会場

鈴木 壮  
学校教育  
A 209

第一日目 7月30日 (金)  
第五日目 9月3日 (金)  
定員 7

04 総合的学習

コース名

異文化理解と言語教育

コース内容

本コースは総合的学習において展開される異文化理解教育(母語と外国語)がどのようなように関わることができるかを検討する。日本語と外国語を学習する意義を確認し、また言語とともに存在する文化についても考察を加える。好むと好まざるとを問わず多文化社会を迎えつつある現在、学校教育における異文化理解教育を考えたい。

コード

EZT044001

担当教員  
大学院専修  
会場

伊東 英  
カリキュラム  
開発  
A 209

第一日目 7月28日 (水)  
第五日目 8月25日 (水)  
定員 7

コース名

総合的な学習の時間の指導と評価

コース内容

総合的な学習の時間に焦点を当てて、年間指導計画、指導方法、評価の観点について、各自が持ち寄った資料に基づいて比較・検討を行う。PDS(計画・実施・評価)のカリキュラム経営サイクルに照らし合わせて、各校の優れた点や特色、改善点を探り出す。諸教科・領域との関連、総合的な学習独自の授業方法・組織、評価方法等について探求していきたい。また、総合的な学習で身に付ける「学力」についても考察したい。自校の年間指導計画、評価の基準・規準のサンプルを持参していただきたい。初等教育を対象にするコースです。

コード

EZT044002

担当教員  
大学院専修  
会場

原田 信之  
学校教育  
A 715

第一日目 8月2日 (月)  
第五日目 8月24日 (火)  
定員 7

<p>コース名 コース内容</p>	<p>小学校英語活動の理論と実際 小学校英語活動に関する全国的な実施状況や個性的な実践事例を担当者から紹介し、それを基にカリキュラム構成、教材開発、授業方法などについて分析検討を行う。受講者は勤務校での英語活動の実践事例があれば初日に年間授業計画、指導案、授業ビデオなどを持参されたい。</p>	<p>コード 担当教員 大学院専修 会場</p>	<p>EZT044003 松川 禮子 カリキュラム 開発 A209</p>	<p>第一日目 8月2日(月) 第五日目 8月30日(月) 定員 7</p>
<p>コース名 コース内容</p>	<p>情報メディアを活用した情報活用と教材開発 構内LANやマルチメディアコンピュータを活用して、教科あるいは総合的学習の時間で使用する素材・教材の収集や、デジタル教材・Web教材・e-Learning教材、CAI教材等の開発、それらを用いる授業開発について検討する。作成する教材や授業の構想、素材などを考えておいてください。また、インターネットを利用したコミュニケーション(電子メール、掲示板、ビデオ会議等)を行うので、学校や自宅でブロードバンド回線が使える環境があることが望ましい。</p>	<p>コード 担当教員 大学院専修 会場</p>	<p>EZT044004 村瀬康一郎 カリキュラム 開発 C102</p>	<p>第一日目 8月3日(火) 第五日目 9月7日(火) 定員 4</p>
<p>コース名 コース内容</p>	<p>地産地消食材で食教育の教材開発と指導の工夫 食教育を旬の身近な地域生産物の教材化の可能性を、学校給食の食内容とあわせて教材開発などを行う。</p>	<p>コード 担当教員 大学院専修 会場</p>	<p>EZT044005 長野 宏子 家政教育 A431</p>	<p>第一日目 7月28日(水) 第五日目 9月14日(火) 定員 3</p>
<p>コース名 コース内容</p>	<p>総合的な学習の全体計画 総合的な学習の時間における学校としての全体計画の作成のあり方と実際について検討する。小学校を対象とする。</p>	<p>コード 担当教員 大学院専修 会場</p>	<p>EZT044006 北 俊夫 社会科教育 A510</p>	<p>第一日目 7月27日(火) 第五日目 9月17日(金) 定員 3</p>
<p>コース名 コース内容</p>	<p>教育の営みを問い直す環境教育の理論的意義と可能性 現代の学校公教育システムにおける巷間の「教育的価値」論を問い直す契機となる「環境教育」の意義と特質についての教育学的研究を行う。日常の身体化・制度化された教育目的や教育行為、教育的タクトなどを、「環境教育」という視点から反省的かつ理論的に振り返ることによって、新たな「持続可能性を実現する教育」の教育実践を模索したい。</p>	<p>コード 担当教員 大学院専修 会場</p>	<p>EZT044007 今村 光章 家政教育 A415</p>	<p>第一日目 7月26日(月) 第五日目 9月7日(火) 定員 7</p>
<p>コース名 コース内容</p>	<p>環境 環境とライフスタイルの観点から小学校における総合的学習の時間の教材開発と評価法を考える。</p>	<p>コード 担当教員 大学院専修 会場</p>	<p>EZT044008 杉原 利治 大藪 千穂 家政教育 A530</p>	<p>第一日目 7月21日(水) 第五日目 8月23日(月) 定員 14</p>

<p>総合的課題 生活にかかわる総合的学習について 受講生は教科書(4000円)を購入して頂きます</p>	<p>コード 担当教員 大学院専修 会場 会</p>	<p>EZT044009 渡辺 光雄 家政教育 A417</p>	<p>第一日目 8月5日(木) 第五日目 9月2日(木) 定員 7</p>
<p>コース名 コース内容 食生活と環境 食生活のあり方と環境との関わりを、エネルギー問題、ゴミ問題、食の安全性、食料生産などを視点として検討する。</p>	<p>コード 担当教員 大学院専修 会場 会</p>	<p>EZT044010 馬路 泰蔵 家政教育 A421</p>	<p>第一日目 7月23日(金) 第五日目 8月25日(水) 定員 7</p>
<p>コース名 コース内容 国際理解教育の考え方 ユネスコが提起した「国際理解教育」の勧告・指針を中心にしながら国際理解教育のありかた・教え方を考える。あらかじめ参考文献「国際理解の歩き方」(あすなろ社/三友社出版)を読んでおくことが望ましい。</p>	<p>コード 担当教員 大学院専修 会場 会</p>	<p>EZT044011 寺島 隆吉 英語教育 研究室 (A508)</p>	<p>第一日目 7月27日(火) 第五日目 8月27日(金) 定員 4</p>
<p>コース名 コース内容 山を理解する 総合的学習では川を題材にしたものが多い。NHK教育放送が通年で取り上げているのも、地域的にも分野的にも多くのものを含んでいるからである。同様に山も多くの地域で見られ、分野的にも多岐にわたる教材である。たとえば里山の下草などの共有。日向と日陰の植生の変化。興山の植林方法と笹流しなどの運材方法。あるいは山の神の祭りなど、多方面から山を理解することができる。そのような教材作りについて考えてみたい。</p>	<p>コード 担当教員 大学院専修 会場 会</p>	<p>EZT044012 伊東 久之 社会科教育 A511</p>	<p>第一日目 8月3日(火) 第五日目 9月14日(火) 定員 3</p>
<p>コース名 コース内容 日本や日本文化を英語で紹介するための英語授業—異文化理解のために 日本や日本文化の特色を自分で考えさせ、それをきちんと英語で説明し、自分の考えを表現する訓練をさせるための授業を考える。参加者はまず自分それぞれの特色を考え、それを英文で書いていくこと。</p>	<p>コード 担当教員 大学院専修 会場 会</p>	<p>EZT044013 西澤 康夫 英語教育 A530</p>	<p>第一日目 7月30日(金) 第五日目 8月19日(木) 定員 3</p>
<p>コース名 コース内容 環境教育を行う上で何が必要か 環境教育はもの本質を見極めないといけないと偏見やムードが先行する危険性をもっている。そのため教師は総合的な眼で物を見抜いていく必要がある。「煤煙」や「南アジアの人口稠密」、「日本の森林面積率」などを題材に、そこにある本質を解説していく。おそらく今までの正義と悪が逆転するのではないかと思う。この研修が今後の環境教育の教材開発などに役立つことを願っている。</p>	<p>コード 担当教員 大学院専修 会場 会</p>	<p>EZT044014 野元 世紀 カリキュラム 開発 第3会議室</p>	<p>第一日目 8月2日(月) 第五日目 8月27日(金) 定員 7</p>

コース名

コース内容

小・中学校における障害理解教育について  
今年度から特別支援教育コーディネーターが順次配されていくが、特別支援教育の推進のためには、教職員と児童生徒の「障害の理解と支援」が必要不可欠であり、その方法論と実践を検討することを目指している。

コード

担当教員  
大学院専修  
会場

EZT044015

池谷 尚剛  
障害児教育  
研究室  
(A204)

第一日目 8月9日(月)  
第五日目 9月27日(月)  
定員 3

05 児童生徒の発達理解

コース名

コース内容

ADHD児への療育のあり方

1) ADHD児の理解 2) 医療側から診たADHD 3) 学校現場でのADHDの3つの視点から、ADHD児への療育のあり方を、包括的に捕え、実際上の諸問題を提起し、その解決策を具体的に示していくことが、本コースのねらいです。

コード

担当教員  
大学院専修  
会場

EZT045001

三牧 孝至  
障害児教育  
障害児教育  
実践センター  
図書室

第一日目 7月27日(火)  
第五日目 8月24日(火)  
定員 7

コース名

コース内容

脳の機能、行動から児童生徒を理解する

近年、脳研究の成果を教育の場に生かそうとする動きがでてきている。研修では、脳の機能と行動との関連について学修し、児童生徒への指導や援助に役立てる(将来役立つような)ことを模索する。例えば、不登校を睡眠リズムの乱れから理解してみる、学習等に関する脳の機能から授業を考えてみる、自閉症等の脳の知見に基づき児童生徒への理解を深めることである。取っ掛かりの資料を用意するので、各自で工夫・展開して欲しい。

コード

担当教員  
大学院専修  
会場

EZT045002

山崎 捨夫  
学校教育  
医学部看護学  
科棟6階606

第一日目 7月23日(金)  
第五日目 8月25日(水)  
定員 7

コース名

コース内容

児童生徒理解/発達心理

心理学は、他者理解の学問である。しかし他者を理解しようとして、永久に他者の本当のところは分からないということに気づく学問でもある。本コースでは、「他者の心が分からない」ということを動物を例にとりながら「他者理解」を理解する。また、動物の研究から心理学は多くのことを学んできた。動物での発達研究を勉強しながら、児童・生徒の発達を理解する。英語の論文予め渡すので、勉強していただく必要があります。また当日英語の辞書を持っていただくこと。

コード

担当教員  
大学院専修  
会場

EZT045003

大井 修三  
学校教育  
A410

第一日目 7月22日(木)  
第五日目 9月10日(金)  
定員 7

コース名

コース内容

軽度発達障害～ADHD、アスペルガー症候群～の子どもの理解と支援

1) ADHDの理解と対応  
2) アスペルガー症候群・高機能自閉症の理解と対応  
3) 上記の点をふまえて、各自の実践報告とそれをもとにした討論  
なお、各自、ケースレポートを初日にもっていただくことを必須とする。

コード

担当教員  
大学院専修  
会場

EZT045004

別府 哲  
学校教育  
A410

第一日目 7月23日(金)  
第五日目 8月27日(金)  
定員 7

コース名 組織における教育の情報化

コース内容 学校教育におけるコンピュータの利用は、「情報教育」に加えて「教育の情報化」という教育経営的な視点へと広がっており、背景には、インターネットに代表される情報通信手段の普及があり、学校内の情報のみならず、教育委員会あるいは家庭をも接続した組織的な利用を可能としていることがある。本コースでは、その立場から現状の各学校におけるコンピュータ利用を再検討し、岐阜大学附属学校等の実践を参考にしながら、今後の「教育の情報化」の具体的な姿を検討する。

コード

担当教員 大学院専修  
会場 学生会

EZT046001

加藤 直樹  
カリキュラム  
開発  
C102

第一日目 7月27日(火)  
第五日目 8月30日(月)  
定員 7

コース名 学校改善プログラムをつくる

コース内容 勤務校が抱えている学校運営や教育課程経営上の課題を検討し、その課題解決のための改善プログラムを考える。昨年度：「ビジネススクールとしての景岐商」「校内研修のシステム改善」

コード

担当教員 大学院専修  
会場 学生会

EZT046002

篠原 清昭  
学校教育  
A706

第一日目 7月23日(金)  
第五日目 8月30日(月)  
定員 3

コース名 学校評価案をつくる

コース内容 現在進められている自校評価を再検討し、学校経営評価、(同僚)教師評価さらには授業評価など、新しい学校評価案をつくる。昨年度：「児童・生徒による学級活動の自己評価と他者評価」

コード

担当教員 大学院専修  
会場 学生会

EZT046003

篠原 清昭  
学校教育  
A706

第一日目 7月23日(金)  
第五日目 8月30日(月)  
定員 2

コース名 スクールリーダー(ミドルリーダー)の役割を考える

コース内容 学年主任、教科主任、研究主任、生徒指導主事等の学校主任としてのリーダーシップの方法と課題を考える。昨年度：「校内研修における研究主任の役割」

コード

担当教員 大学院専修  
会場 学生会

EZT046004

篠原 清昭  
学校教育  
A706

第一日目 7月23日(金)  
第五日目 8月30日(月)  
定員 2

コース名 学社連携・融合による開かれた学校づくり

コース内容 最近では学校、家庭、地域が一体となって、子どもの教育にあたる必要があるといわれており、全国各地で学社連携・融合(学校教育と社会教育、学校と地域社会の連携・融合)の実践が展開されている。学社連携・融合の実践は、開かれた学校づくりのための有効な方法のひとつと考えられている。本コースでは、学社連携・融合のあり方を実践的に検討し、受講生の勤務校における学社連携・融合の取り組みをおとした開かれた学校づくりの具体的な方策等を考究していく。したがって、受講生は、本テーマに関わる勤務校の関連資料を収集し、研修当日にご持参いただきたい。

コード

担当教員 大学院専修  
会場 学生会

EZT046005

森田 政裕  
益川 浩一  
カリキュラム  
開発  
総合情報メテ  
ィアセンター  
B館セミナー室  
(地域科学部・共通教育棟3F)

第一日目 8月3日(火)  
第五日目 9月3日(金)  
定員 14

コース名

学校の情報環境構築のあり方

コース内容

構内LANの構築やそれを活用した指導・学習・管理の方法について検討する。勤務校の情報環境について調べますので、心づもりをしておいてください。また、インターネットを利用したコミュニケーション（電子メール、掲示板、ビデオ会議等）を行うので、学校や自宅でブロードバンド回線が使える環境があることが望ましい。

コード

EZT046006

担当教員  
大学院専修  
会場

村瀬康一郎  
カリキュラム  
開発  
C102

第一日目 7月30日(金)  
第五日目 9月6日(月)  
定員 3

07 実践型・実証研究法

コース名

デジタル学習素材を利用した教材開発

コース内容

インターネット上の学習素材や、デジカメ等を用いて自分自身で作成した学習素材を利用しながら、学習者の活動を活性化させるための教材の設計開発を行う。主眼は授業での活用にあるため、高度なパソコンの知識・技能は必要ない。

コード

EZT047001

担当教員  
大学院専修  
会場

益子 典文  
カリキュラム  
開発  
教育学部隣接  
・総合情報メデ  
イアセンター  
C102

第一日目 8月2日(月)  
第五日目 8月30日(月)  
定員 7

コース名

学級づくり

コース内容

「大人が子どもと出会うとき・子どもが世界を立ちあげるとき」の考察を深めたい。今回は、中学校実践のみの分析としたい。なお、事前に配布される論文に目を通しておいて参加し、お互いの実践に学び、実践課題を深めていきたい。

コード

EZT047002

担当教員  
大学院専修  
会場

吉田 和子  
学校教育  
A715

第一日目 7月26日(月)  
第五日目 8月2日(月)  
定員 7  
または  
8月3日(火)

コース名

教師のセンスをみがく授業分析

コース内容

授業記録を作成し、分析考察します。子どもの問題意識と教師のねらいとのズレに注目したり、予想外の子ども表現にその子の学びへの意欲の芽を発見したりします。子どもの表現の興味を捉え、子どもへの見方や働きかけ方を磨き、2学期の実践につなげる場にしたいと願っています。(初日は別のコース「学びへの意欲が育つ授業づくり」と合同で行う)1学期に授業のビデオ録画や録音記録をとってみてください。授業案(略案で構わない)や気になる子どもの記録等持参ください。

コード

EZT047003

担当教員  
大学院専修  
会場

石川 英志  
学校教育  
A715

第一日目 7月23日(金)  
第五日目 9月24日(金)  
定員 4



コース名

コース内容

学びへの意欲が育つ授業をどうつくるか  
一今の授業を見つめ、新たな授業像を求め-

他の子どもとの関わりの中で問題意識と追求を深める授業、気づく(問題解決)力を磨く授業のあり方等を、自分の授業案や授業記録の考察に基づき、具体的に考えます。教科は特定せず、総合的な学習も重要な対象とします。(初日は別のコース「授業分析」と合同で行う)1学期に授業のビデオ録画や録音記録をとってみてください。授業案やある子どもの学びの記録等持参ください。

コード

担当教員  
大学院専修  
会場

EZT047004

石川 英志  
学校教育  
A715

第一日目 7月23日(金)  
第五日目 9月28日(火)  
定員 3

コース名

コース内容

外国籍児童生徒に対する日本語指導法

近年、岐阜県内でも増え続ける外国籍の児童生徒にどのような教育をしたらよいか迷っていませんか?日本語指導の特別な取り出し学級の担当の先生の中みならず、担任する学級に日本語が十分理解できないうる児童生徒がいる中には、適切な指導法が分からず苦労している外国籍児童生徒に多いと思います。このコースでは、県内外で実践されている外国籍児童生徒に対する教育を紹介しながら、よりよい日本語指導のあり方を考えていきます。

なお、本コースでは研修第5目を9月中旬に設定し、二学期開始から研修5日目までの期間になるべく多くの研修生の学校を訪問し、授業を見せていただく予定です。

コード

担当教員  
大学院専修  
会場

EZT047005

山田 敏弘  
国語教育  
A624

第一日目 7月23日(金)  
第五日目 9月17日(金)  
定員 3

コース名

コース内容

問題解決型の道徳教育の理論と実際

学校生活における道徳的問題(いじめ、喧嘩、非行、恋愛など)を取り上げ、子どもが自ら課題を発見し思考し解決する学習方法を検討する。多様なカウンセリング・スキルを取り入れながら、子どもたちの思考と感情と行動にホリスティックに働きかける新しい道徳教育のあり方を探求し、実際に道徳授業の立案を行う。

コード

担当教員  
大学院専修  
会場

EZT047006

柳沼 良太  
学校教育  
A715

第一日目 8月3日(火)  
第五日目 8月30日(月)  
定員 7